

# 平成 27 年度 地域魅力化応援隊員 業務報告書 ＜総括表＞



地域魅力化応援隊員が魅力ある地域づくりを応援します

益田市政策企画局人口拡大課

(1) 平成 27 年度地域魅力化応援隊員名簿	P. 3
(2) 益田地区	P. 4～P. 7
(3) 吉田地区	P. 8～P. 11
(4) 高津地区	P. 12～P. 13
(5) 安田地区	P. 14～P. 17
(6) 鎌手地区	P. 18～P. 21
(7) 種地区	P. 22～P. 24
(8) 北仙道地区	P. 25～P. 28
(9) 豊川地区	P. 29～P. 32
(10) 真砂地区	P. 33～P. 36
(11) 西益田地区	P. 37～P. 40
(12) 二条地区	P. 41～P. 44
(13) 美濃地区	P. 45～P. 48
(14) 小野地区	P. 49～P. 52
(15) 中西地区	P. 53～P. 55
(16) 二川地区	P. 56～P. 58
(17) 匹見上地区	P. 59～P. 61
(18) 匹見下地区	P. 62～P. 64
(19) 道川地区	P. 65～P. 68
(20) 地域魅力化応援隊員事業実施要綱	P. 69～P70

【地域魅力化応援隊員とは】

総務省が制度化している「集落支援員制度（特別交付税措置）」の益田市版で、地域の課題整理や住民同士の話し合いの促進等により、住民自治機能の強化を支援します。地域魅力化応援隊員は、配置の希望があった地区振興センターに配置しています。

平成 27 年度地域魅力化応援隊員名簿

No.	配置先	活動地区	氏名	採用年月
1	益田地区振興センター	益田地区	原 浩	平成 27 年 4 月
2	吉田地区振興センター	吉田地区	徳屋 映三	平成 26 年 4 月
3	高津地区振興センター	高津地区	桑原 利夫	平成 27 年 5 月
4	安田地区振興センター	安田地区	尼子 達夫	平成 27 年 5 月
5	鎌手地区振興センター	鎌手地区	和佐田 昭弘	平成 27 年 11 月
6	種地区振興センター	種地区	吉野 和則	平成 27 年 4 月
7	北仙道地区振興センター	北仙道地区	堀江 宗仁	平成 26 年 4 月
8	豊川地区振興センター	豊川地区	岡崎 友臣	平成 26 年 4 月
9	真砂地区振興センター	真砂地区	岸本 真樹	平成 27 年 8 月
10	西益田地区振興センター	西益田地区	栗山 三男	平成 26 年 12 月
11	二条地区振興センター	二条地区	伊藤 浩治	平成 27 年 4 月
12	美濃地区振興センター	美濃地区	真庭 太樹	平成 26 年 4 月
13	小野地区振興センター	小野地区	山本 勉	平成 26 年 7 月
14	中西地区振興センター	中西地区	吉賀 和之	平成 27 年 5 月
15	二川地区振興センター	二川地区	小原 静伍	平成 26 年 4 月
16	匹見上地区振興センター	匹見上地区	大畑 馨	平成 26 年 5 月
17	匹見下地区振興センター	匹見下地区	小島 雄二	平成 27 年 10 月
18	道川地区振興センター	道川地区	高田 順子	平成 26 年 4 月

計 18 名

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

益田地区振興センター

2. 配置年月

平成 27 年 4 月

3. 活動の概要

①活動の内容

○地域自治組織設立のための支援

- ・ 6 月 16 日 第 1 回益田地区地域自治組織設立準備会



地域魅力化事業審査

本年度の地域魅力化事業の検討

- ・ 10 月 6 日 第 1 回設立準備会役員会  
地域づくり研修について  
アンケート調査について  
先進地区視察研修について
- ・ 10 月 29 日 第 2 回設立準備会役員会  
アンケート内容、対象、配布回収方法の検討  
先進地区視察研修の日程、内容の確認
- ・ 11 月 20 日 広島県庄原市 庄原地区振興センター研修視察



準備会から9名参加

自治振興区設立までの庄原市、人口6,000人規模の庄原地区振興センターの取り組みの概要の説明を受ける。

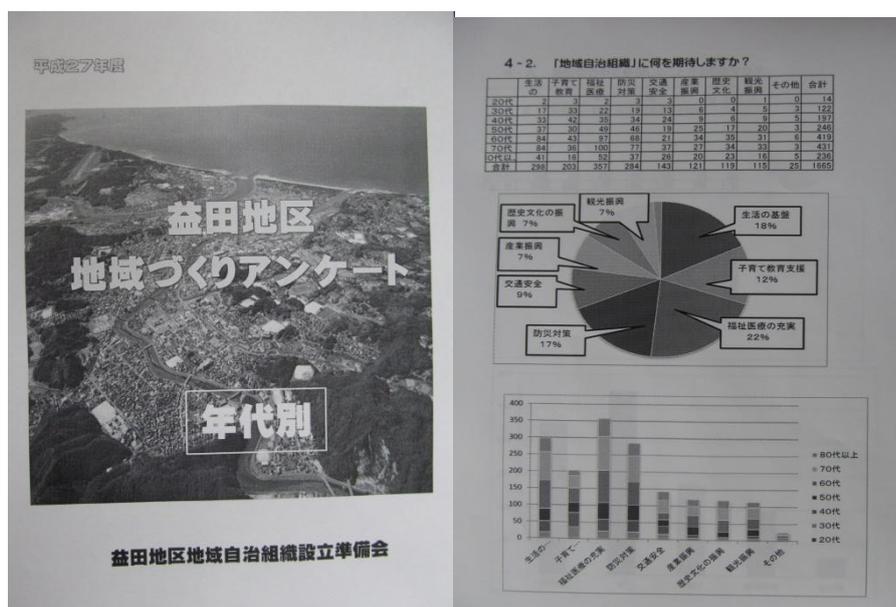
- ・ 12月10日 第2回設立準備会



先進地区視察研修の報告をし、参加した委員が感じたこと、今後参考となることなどを話し合った。

また、アンケート調査について質問項目、内容、配布・回収方法などを検討した。

- ・ 3月1日 地域づくりワークショップ



アンケート結果をもとにして各項目ごとに準備会委員で分析した。その後、「アンケートから感じたこと」をテーマにして、意見交換を行なった。地区の課題に対して今何ができるか、地域自治組織として何をすべきかなど、来年度につながる意見もたくさん出された。

## ○地域魅力化事業の支援

### ・『食』を活かした観光プログラム開発



- 7月3日 民族学者の神崎宣武氏と街歩きを実施し、観光コンテンツを考える
- 7月4日 神崎氏による講演会「食と歴史を活かしたまちづくり」と意見交換会を実施

### ・第14回歴史探訪ウォーキング事業



- 9月27日 『知ろう！歩こう！七尾城下町』をテーマに86名の参加者を  
得て、実施。7つのチェックポイントにおいて、歴史の説明やゲームをした。  
ウォーキングのあとは御土居鍋のサービスと景品の抽選会で参加者に楽しん  
でもらった。

### ・歴史を活かした100円商店街

- 12月5日 益田の商いの原点である宗味市と関わらせながら、100円商店  
街を実施。益田地区商店街の活性化の取り組みの一つとして実施した。

## ②活動の成果及び効果

自治組織設立に向けての準備がようやく始まったところである。準備会も3回（含ワークショップ）開催することができた。準備会委員全員が集まる機会を度々設定するのは難しいので、本年度は役員会を2回設定し、アンケート調査等の検討を重ねることができた。応援隊員一人だけでいろいろ考えたり、計画するのは大変であるが、役員会となれば少人数で細かく検討し準備できるのでその意義はとても大きかったように思う。

アンケート調査は回収率が24%と目標を大きく下回ってしまったが、地域住民への自治組織の啓発にもつながり、また寄せられた意見を参考にして、来年度以後、よりよい地域づくりのために今何ができるのかを考える大きな手がかりとなった。

## 4. 残された課題と今後の提案

地区住民の自治組織に対する関心度の低さがアンケート調査の回収率の低さにもつながったと考えている。そのためにも組織を設立準備会から『まちづくり協議会』（仮称）へと発展させ、何か形として表していくことが必要だと思う。アンケートからは買い物の不便さ困難さを訴えたものや、一人暮らしの不安などがうかがえた。『まちづくり協議会』として、その解消に少しでも取り組めたら自治組織に対する住民の意識も変わっていくのではと考える。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

はっきり言って何もかも分からないままに活動を開始し、不安だけの毎日であった。そのためにこれからどうするかということよりも、これまでの応援隊員が何をしてきたのかということばかりが気になって仕方がなかった。次第に地域の方たちと関わりをもつ機会が増えていくと、いろいろアドバイスをいただいたり、手助けをしていただくことも多くなってきて、地域の中で働いているという実感も出てきた。アンケートの意見をまとめていく中では、住民の切実感が伝わってきて、「この地域のために何ができるのだろうか」と自分なりに考えることも多くなってきた。

この1年で何ができたかと胸を張って言えるものは何もないが、この経験からこんなこともできるかも知れないと思いを巡らせるようになってきたのも事実である。

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署  
吉田地区振興センター
2. 配置年月  
平成 26 年 4 月
3. 活動の概要  
(ア)活動の内容

魅力化応援隊員の業務は、地区で地域魅力化プロジェクト事業に取り組む団体の支援・地区住民等と連携して地域課題の整理、情報の共有化を図り、住民自治機能の充実や機能強化支援・地域づくり計画の策定支援などを担っています。昨年度に引き続き、吉田地区の地域魅力化プロジェクト事業として“地域魅力化事業”と“地域自治組織設立準備事業”を実施しました。

業務名	内容	実施日程	実施体制
① 地域魅力化事業	<p>・地域の魅力を向上させる事業を“地域魅力化事業”として地区内に公募しました。</p> <p>・応募団体への事業説明会</p>  <p>・実施団体へ事業負担金を交付しました。</p> <p>・便りにて地区内に事業の告知、案内をし、住民の皆さんへの参加の呼びかけを行いました。また、事業の報告などをあわせて行いました。</p>	<p>5 月・地区内回覧にて事業募集</p> <p>6 月・事業説明会</p> <p>・応募締切り</p> <p>・審査会 (事業決定)</p> <p>8 月、9 月</p> <p>・負担金交付</p> <p>4 月～3 月</p> <p>・各事業実施及び成果確認</p> <p>3 月・報告</p>	<p>協働</p> <p>・実施団体</p> <p>・「吉田の未来を考える会」準備会</p> <p>・センター職員</p> <p>・公民館職員</p>
② 地域自治組織設立準備事業	<p>昨年度、地域自治組織設立準備会として設立した、「吉田の未来を考える会」準備会において吉田地区における“地域自治組織”についての検討・協議、また、地域の現状把握のための取組を行いました。</p> 	<p>4 月～3 月</p> <p>・「吉田の未来を考える会」準備会にて地域自治組織について協議</p> <p>(計 7 回の会議を実施)</p>	<p>協働</p> <p>・「吉田の未来を考える会」準備会</p> <p>・人口拡大課</p> <p>・センター職員</p> <p>・公民館職員</p>

(イ)活動の成果及び効果

● 地域魅力化事業の業務においては・・・

今年度は次の7つの事業に実行委員会として負担金を実施団体に交付し、実施団体が主体となって事業を進めました。

事業名 (団体名)	事業の内容	成果と効果
<p>雪舟の町、観光案内とおもてなし事業 (雪舟の郷元気づけ隊)</p>	<p>・雪舟の郷記念館・大喜庵周辺の環境美化、観光客への湯茶接待や観光案内。 その取り組みの紹介や活動の様子を公民館便り、ホームページ等で地区住民へ告知。</p> 	<p>施設の環境維持や来場者への湯茶接待で喜んでいただき、雪舟の町としてのPR活動に取り組みました。 また、「雪舟の郷記念館」との共催行事「雪舟旬遊イベント」も行い、観光地としての更なる宣伝効果やリピーターの増加、関係団体との協働も見受けられました。 地区住民はもとより地域の“宝”としての市民の意識向上にもつながっていると考えます。</p>
<p>みんなで集まり大きな輪作り事業 (久城西自治会)</p>	<p>・地区住民への健康教室を開催し、高齢者の健康維持・交流の促進を図ると共に日常の生活の状況を把握。</p>  <p>・救急法に関する基礎知識や技術の習得、防災の基礎的訓練の実施。また、災害時非難所の備品として持ち運び式発電機を購入。 事業の紹介や活動の様子を公民館便り、ホームページ等で地区住民へ告知。</p>	<p>健康教室を定期的で開催することにより、普段の高齢者の状況把握が出来、健康維持にも寄与し、自治会内だけでなく近隣自治会からの参加者との交流にも繋がっています。 防災に関する取り組みを継続することにより、防災に関する意識や訓練の必要性の意識が向上しています。 また、持ち運び式発電機の購入・備えつけにより、避難所としての必要備品の備付・整備が出来つつあります。</p>
<p>スポーツ広場の整備・拡充事業 (久城北自治会)</p>	<p>・広場や周辺の環境整備、花壇の整備、桜の苗木植樹、広場への砂入れ。 ・広場の活用方法の検討会。 ・ベンチの作成備えつけ。</p>	<p>少しずつですが、広場の環境整備が出来、スポーツに使用しやすい広場となりました。 花壇整備・桜の苗木植樹の取り組みは継続性が必要で結果はもう少し後に出てくると思います。 作業を共同で実施するとともに、地区内で活用法などを協議す</p>

		ることによって、地域住民に関わりが生まれつつあります。
古来伝承文化の掘り起し事業 (NPO久栄会)	<p>・益田氏による「益田学シンポジウム」として講演会・パネルディスカッションを開催。</p>  <p>・賀姫神社及び久城地区に係る伝承文化の講演会及び研修会。それらの取り組み事業の紹介や活動の様子を公民館便り、ホームページ等で地区住民へ告知。</p>	<p>「益田家の伝承」として益田氏直系の方の講演により、あまり知られていない益田家の暮らしぶりなどを知る貴重な講演となり、参加された方々の益田家への関心や理解が深まったと思います。</p> <p>久城地区に残る文化財の文化的価値の認識が少しずつではありますが、地区内外へと広がっています。</p> <p>また、講演会への参加者も増えており、住民の“地域の宝”としての意識や関心が高まりつつあると考えています。</p>
子育て世代へのアンケート調査事業 (「吉田の未来を考える会」準備会)	<p>社会教育課との協働で子育て世代（地区内小・中学生保護者）へのアンケート調査（主に地域とのつながりに関わる意識調査）を行い、吉田小学校・吉田南小学校・益田中学校のPTAの協力をいただきながら実施。</p>	<p>自治組織設立準備会内で、子育て世代が感じている地域への意識がある程度把握出来ました。また、その結果は今後の取組への材料としていきます。</p> <p>また、その集計結果を基に益田市社会教育委員の会から益田市へ提言書が出され、今後の取組へとつながっていくと考えられます。</p>
「岸静江国治」150年忌記念事業 (多田自治会)	<p>石州口の戦いがあった地元の多田地区の住民の目線での「岸静江」や長州軍の進軍経路に関する「栞」を作成し、益田市・浜田市・萩市・山口市の各観光協会や関係各所への配布し、この取り組みの紹介を公民館便り、ホームページ等で地区住民へ告知。</p>	<p>2016年に実施される「岸静江国治」の150年忌追悼行事や講演会へ向けて、益田市民や諸関係市への歴史的資源としての再認識や情報発信へとつながっていくものと考えられます。</p>
「食」と「命」について考える集い事業 (吉田小学校PTA)	<p>吉田小学校の学校公開日にあわせて、児童、保護者、TKPパートナー、地域住民の方が集い、学び、交流する機会としての講演会を実施し、この取り組みの紹介や活動の様子を公民館便り、ホームページ等で地区住民へ告知。</p>	<p>“「食」と「命」について考える”の講演を児童、保護者、TKPパートナーの方々と一緒に聞くことが出来、「食」の大切さや「命」の重みを共に考えさせられました。</p> <p>また、繋がりづくりや「つろうて子育て」の意識の醸成も図れたと思います。</p>

- 地域自治組織設立準備事業の業務においては・・・

今年度は、「吉田の未来を考える会」準備会にて地区振興センター運営委員会と同時開催として7回の会議を実施しました。

- ・“準備会”内での地域自治組織について委員の意見交換や研修（先進地視察の報告など）を実施。また、会議での検討議題や情報の提供。
- ・地区内の子育て世代へのアンケート調査の実施。

#### 活動の成果及び効果について

今年度の会議で、吉田地区で地域自治組織を設立するとすれば、どのような組織となるのか？を様々な立場からの意見交換が行われました。

また、自治組織の是非に関わらず地区内の現状の一端が子育て世代へのアンケート調査により把握・共有することが出来、今後の取組への材料とすることが出来ました。

準備会で議論を進めていく事により、市の施策・方向性とは違う形での地区としての在り方や取り組み方を検討し、進めるべき・進むべき方向が見えてくるのかもしれない。

#### 4. 残された課題と今後の提案

昨年度同様に魅力化事業に関しては吉田地区全体の魅力化という事には至らず、限られた範囲での取り組みになっています。しかし、広範囲の吉田地区においては、そのような取り組みを少しずつ広げていくしかないのかもしれないと感じています。

また、吉田地区なりの“地域自治組織”とは？を準備会内で協議していますが、難しい課題となっており、来年度からも準備会の中でその難しい取り組みを少しずつでも出来るように知恵を出し合う事としました。

準備会の構成員ももう少し増やし、より多くの意見や提案を出し合い、幅広い協議が出来る準備会にしていければと考えています。

地域の状況把握に関しては、テーマや対象者を絞って取り組んでいければと考えています。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の業務を振り返って

地域自治組織設立準備事業に関しては、吉田という地区における、“地域自治組織”の必要性やどのような組織として成り立つのかを「吉田の未来を考える会」準備会の会員の方々と共に協議、検討している現状です。

また、地域づくりについても、昨年に引き続き各地区の地域魅力化応援隊員との情報交換や地域づくりの為に研修参加、自治組織の先進地視察等に参加し勉強させてもらいながらの2年目となりました。

業務の成果としては他地区の進行状況などから考えると、遅々として進んでいない状況に力不足、勉強不足な自分を考えさせられています。

そんな中であっても、地区のいろいろな活動をされている方々と地区の現状やこれからの地区の在り方などについて話し合っている事は自己評価できていることです。

地域魅力化応援隊員 氏名 桑原 利夫

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

高津地区振興センター

2. 配置年月

平成 27 年 5 月

3. 活動の概要

①活動の内容

1) 地域自治組織について

- ・地域づくり協議会を通して高津小学校の P T A 会員にアンケート実施。
- ・地域づくり協議会でアンケートの報告を交え、中山間地域研究センターの檜谷 邦茂氏の講演会を開催、その後ワークショップをする中で、意見交換や協働作業（作図）をした。

2) 地域魅力化事業について

- ・柿本人麿公の偉業を顕彰する事業、高津やぶさめ継承事業、高津の歴史・文化・旧跡保存事業、伝統芸能持石田植囃子保存事業、高津花いっぱい事業の 5 つの活動をした。

② 活動の成果及び効果

1) 地域自治組織について

- ・アンケートを取り、集計、報告、講演会、ワークショップをする中で地域住民の意識の変化が少し伺えた。



2) 地域魅力化事業について

- ・5 つの活動を通して、交流人口の拡大や、小学生への継承への意識づくりがなされたことは、地域の活性化・賑わいに効果があった。

#### 4. 残された課題と今後の提案

##### 1) 地域自治組織について

- ・ 拡大地域づくり協議会で、今後も話し合いをしっかりとやるのが肝心で、お互いの理解を深め、共通認識が生まれるようにしたい。
- ・ 意識変化を期待しての協働作業も必要に感じるので、ワークショップ形式で取り組み、若者・女性層の拡大を図りたい。

##### 2) 地域魅力化事業について

- ・ 今後は、今まで以上に拡大を図り、事業そのものにかかわる人員を増やすような魅力的で新しい企画を盛り込んでの活動ができれば、より効果が出ると思われる。一つは、より広域からの参加を図る。もう一つは、広い年代層に呼びかけ、特に若者層を増やす。そしてみんなで知恵を絞って取り組みたい。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

すべてが初体験で新鮮に感じたが、様子がよくわからなかったことが多く、満足の出来る内容ではなかった。しかしながら、実体験出来たことは、次年度に生きると思うし、是非とも工夫をし、斬新なアイデアを抽出して臨みたい。広島県神石高原町の視察は、大いに刺激になったので、血肉にして取り組みたい。

#### 【高津地区魅力化事業】写真報告



ひとまるさんカルタ大会



高津の歴史と文化を語る会  
小学校野外教室



老人クラブ花いっぱい活動文化展展示



持石田植囃子保存会出前講座



やぶさめ継承事業（八朔祭）

地域魅力化応援隊員 氏名 尼子 達夫

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署  
安田地区振興センター
2. 配置年月  
平成 27 年 5 月
3. 活動の概要

①活動の内容

**地域自治組織設立支援事業**

人口拡大を目標に地域の問題を把握し、望ましい地域の未来を住民全体で考え、解決していくことを目的とする『地域自治組織』設立に向け準備していった。

- ・安田地域づくり協議会会長の諮問機関として企画委員会（構成員の中から 10 名程度）を設置し、月 1 回会議を設け今後の活動を具現化するため話し合っている。
- ・安田地区の実態把握や、住民ニーズ把握のために「住民アンケート」を実施した。
- ・地元製品の生産販売を目的とした拠点づくりを目指すため、「道の駅湯の川」と「道の駅サンピコごうつ」を視察し代表者の方から詳しく説明を受けた。



H27. 6. 12 地域づくり協議会総会  
出席者：構成員 28 名振興センター 2 名  
市人口拡大課 2 名



H28. 1. 20 第七回企画委員会及び役員会  
出席者：7 名振興センター 2 名  
市人口拡大課 2 名高齢者福祉課 1 名



H28. 1. 18 「道の駅湯の川」視察  
参加者：18 名



H28. 1. 18 「道の駅サンピコごうつ」  
参加者：18 名

## 地域魅力化事業

### (1)、フリーマーケット事業

安田地域で農産物、手作り品などの販売を通して農産物の生産、加工、独自商品の開発などを行い地域住民の生産意欲を高めるとともに地域の活性化を図る。

#### フリーマーケット『安市』開催

第1回	H27. 6. 21 (日) AM9時～11時	出店者：21名	来場者：約250名
第2回	H27. 10. 18 (日) AM9時～11時	出品者：23名	来場者：約300名
第3回	H27. 12. 20 (日) AM9時～11時	出品者：20名	来場者：約250名



### (2)、地域お助け隊事業

地域の高齢化が進む中、自分で作業することが出来ない住民に代わって有償で草刈り作業などを代行する「地域お助け隊」を結成した。住民が安心して暮らせる環境づくりを目指す。作業を担っていただく住民の所得向上と生きがいに繋がる。

「あ!!それらせてください」と「作業員募集」のチラシを安田地域全戸に配布した。現在作業員として登録していただいている人は、男性 11 名、女性 4 名です。H27. 8 月から 12 月まで作業受注状況は 21 件で、うち草刈作業が 10 件、庭木刈込 6 件、墓地清掃 4 件、その他 1 件となっている。



### (3)、史跡・遺跡整備事業

永年、旧山陰道の整備を行い、歴史の伝承事業に取り組み、保存してきた先駆者たちの業績を周知することで、地域の方に安田人としての誇りを持たせる。

- ・旧山陰道の草刈りを年2回実施した。



木部境～津田峠橋、寺町～鹿田峠近傍、大和ゴム～東町境間三地区に分かれて作業。

第1回目：H27. 7.26（日）AM7：00～8：00 参加者：29名

第2回目：H27.10.18（日）AM7：00～8：00 参加者：26名

- ・GISを使って史跡・遺跡マップづくり
- 現在、史跡・遺跡の写真撮影準備作業中

### (4)、地域環境整備事業

地域の環境美化をすすめ、住民が明るく快適に生活できる環境をつくる。

- ・遠田川河口付近の雑草の刈り払い、焼却、漂流物の回収除去



第1回目：H27. 7. 11（土） 参加者：4名

第2回目：H27. 7. 15（水） 参加者：3名

第3回目：H27. 9. 22（火） 参加者：4名

第4回目：H27. 9. 29（火） 参加者：4名

### ②活動の成果及び効果

#### 地域自治組織設立支援事業

- ・今年度より「企画委員会」を設け毎月一回H27年7月より開催している。話し合いをすることで各事業の計画、実行、検証がスムーズになり各事業相互の理解を深めながら進められるようになってきた。
- ・安田地区の実態把握、住民ニーズの把握の為全戸を対象に「住民アンケート」を実施した。回収率は約40%、年代別では60代以上が67%、性別では男性が60%で若

年層と女性の意見を反映していないのが問題であった。この結果を分析しどのように今後に活かしていけばよいのか検討する必要がある。

- ・地域住民による「道の駅」2か所の視察研修を行った。用意した質問に丁寧に説明頂き、地元産の野菜、海産物、花、地元で加工された食品の流通の仕組みなどを勉強した。この視察を通して今後安田地域をどのように盛り上げていけば良いのかを考えていくきっかけになったと思う。

#### **地域魅力化事業**

- ・「フリーマーケット事業」では、種地区、北仙道地区などから新規出店者が増え取扱品種が増えたことと、東陽中学校の生徒3人がボランティアで販売に参加して下さり、参加者の輪が広がりつつある。また、フリーマーケット『安市』の新名称を安田地区全世帯と、東陽中学校の生徒さんから募集したところ110人以上の応募がありPRにもなった。
- ・今年度新たに立ち上げた「地域お助け隊事業」では、地域の皆さんからの依頼も順調に増え喜んでいただいている。また、作業を担当して下さる地域の方からも少額ながら収入が増え生き甲斐づくりにも寄与している。
- ・「史跡・遺跡整備事業」では、旧山陰道の草刈作業を年2回行い、歴史的遺産を残すことの意義を感じ、ウォーキングコースにしていきたいという声も上がっている。
- ・「環境整備事業」は、補助金対象事業ではないが、遠田川と嶽川の草刈、海洋漂流物の除去は生活環境維持上欠かせない作業なので、協議会事業として継続している。また、これにかかる人的経費は地域お助け隊事業の利益から賄うことで地域への還元が出来ている。

#### 4. 残された課題と今後の提案

- ・「地域自治組織設立準備事業」では、住民アンケートの結果を精査し、地域の実態と住民が求めているものは何か、そのために何をすべきかしっかり考える必要がある。小さな拠点づくりを目指しているが、地域で活動している組織、団体等（たとえば野菜生産者、味噌作り、食改、菓子づくり）を一体的に取り込んでいけるように先進地視察で学んだことを活かしていきたい。そして最大の問題は、その拠点のリーダーとなる人材をいかにして確保するかにある。
- ・「地域魅力化事業」では、フリーマーケット事業で農産物の手作り講習会や有機野菜の栽培講習会を実現できなかった。史跡・遺跡整備事業でマップづくりを計画しているが、今年度内に何とか形にし、地域住民への情報発信・情報共有を促進したい。案内看板の老朽化が進んでいるため、修理や新設の必要性を感じている。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

応援隊員として5月より活動させてもらっています。私自身、以前は地域活動に無縁でしたが、公民館活動や応援隊活動を通して地域の方の顔と名前を憶えることができ、急に世間が広がってきて活動する上での楽しさを感じています。安田地域の高齢化率は市内では最も低い状態ですが、いま何らかの形で公民館と関わっておられる方は高齢の方が多く、先行きが危ぶまれます。若い世代へのスムーズな後継を急ぐ必要があると感じています。そして微力ながら地域で支えあえる組織作りに協力していきたいと思っています。

地域魅力化応援隊員 氏名 和佐田 昭弘

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

鎌手地区振興センター

2. 配置年月

平成 27 年 1 1 月

3. 活動の概要

①活動の内容

- ・健康増進体操
- ・鎌手地区文化祭
- ・唐音林道清掃
- ・水仙の里かまてウオーク
- ・フリーマーケット

②活動の成果及び効果

『健康増進体操』

- ・年 6 回開催。参加者の多くの方が、軽微な体操で体が軽くなったとか、認知症予防に役立ったなど高評価を得ており、次年度も継続して実施する予定である。

『鎌手地区文化祭』

- ・鎌手地区恒例イベントの一つであり、全地区民が楽しみにしている行事でもある。約 30 の団体の協賛により、展示やバザー等を行っており、地区内外からも大勢のお客さんで賑わった。

『唐音林道清掃』

- ・1 月 17 日の第 15 回水仙の里かまてウオーク実施に伴い、12 月 20 日、林道の清掃及び、唐音水仙公園周りの清掃活動を行なった。清掃後は大変きれいになったが、1 月初旬及び、ウオーク終了後の 1 月 18 日夕方からの暴風雨で小枝や草が道路上に一部散乱したことで、後片付けの処理が大変であった。

『水仙の里かまてウオーク』

- ・鎌手地区の一大イベントの一つであり、地区内はもとより、市内県外からも多くの参加をいただいている。本年も昨年同様の 455 名の参加者があり、水仙ポットや切り花の販売、シシ鍋・バザー等で大変賑わった。

『フリーマーケット』

- ・地区内の一部女性の声もあり、本年度初めて水仙ウオークに絡め実施した。6 店舗協賛で、水仙ウオーク終了後公民館大会議室で行ったが、ウオーク参加者がイベント終了後大半の方が帰られたこともあり、売れ残りも生じてしまった。

この事をふまえ、次回は公民館周辺の敷地内で行う方が良いと感じられた。  
ただ、野菜販売を行った店舗は早々に品薄状態で完売となり、買われたお客さんが喜んで帰られる様子が見てとれた。

#### 4. 残された課題と今後の提案

- ・鳥獣被害防止対策事業で、年度途中の異動で隊員交代といったこともあり、各受験者への助成金支払いが年度当初計画より上回った支払いが発生した。

この件については、現在も対応に苦慮しており、本庁より年度初めに細部に亘った指導・対応等が出来なかったかが疑問である。

特に昨年年末から、1月20日までの間、水仙公園の管理に携わったところ、地区内はもとより、市内県外からも多くのお客様が来園されていることに驚いた。

水仙公園の駐車場は二ヶ所あるが、いずれも狭く砂利での駐車場である。

せめて、第一駐車場だけでも広ければ、ピークである12月後半から1月後半までの間、もっとスムーズにお客さんの出入りが可能となったのではないかと考える。

現在、時期的には冬季であり、殆どの車がスタッドレスタイヤを装着している為、タイヤに石が挟まり、飛石損害等で他車へ損害を与えかねない状況下にある。

一般的に法律上は、石を飛ばした方の責任は問うことは出来ないにしても、今後の事故防止の観点からも、簡易舗装を行うことで事故の未然防止に繋がっていくと考える。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

- ・現在着任して3ヶ月が経過した。年度途中の異動で隊員交代といったこともあり、期待と不安の中でのスタートとなった。

未だ自分自身の経験や力不足により、満足する結果に結びついていないことも多々あるが、地域住民の皆様の声を拝聴し、地区振興センター長をはじめ、他職員の意見も聞き取り、参考とさせていただいた上で、残された事業を行っていきたいと考えている。

《写真》

(H27・7・9 健康教室) No.1



(H27・7・9 健康教室) No.2



(H27・11・15 文化祭) No.1



(H27・11・15 文化祭) No.2



(H27・11・15 文化祭) No.3



(H27・11・15 文化祭) No.4



《写真》

(H27・12・20 唐音林道清掃) No.1



(H27・12・20 唐音林道清掃) No.2



(H28・1・17 第15回水仙ウォーク) No.1



(H28・1・17 第15回水仙ウォーク) No.2



(H28・1・17 第15回水仙ウォーク) No.3



(H28・1・17 フリーマーケット) No.1



(H28・1・17 フリーマーケット) No.2



## 種地区

### 地域魅力化応援隊員 氏名 吉野 和則

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

#### 1. 配置部署

種地区振興センター

#### 2. 配置年月

平成 27 年 4 月

#### 3. 活動の概要

##### ①活動の内容

##### [まちづくりプラン作成]

地域自治組織設立に向けて、その母体となる「種むらづくり推進協議会」の活動計画の基となる「まちづくりプラン」の策定をめざした。地区におけるこれまでの課題や問題点を踏まえ、中学生以上に住民アンケートを実施することで地区の現状を再確認し、見えなかった問題点を探ることを意図した。

現状を認識した上で、問題解決を図るべく「まちづくりプラン」案を協議し策定するに至った。また、逐次全住民に結果を報告することで、住民との情報の共有化を徹底し、活動の主体は地域住民であること、また全員参画であることを意識した。



##### [地区の環境把握]

全地区内の空き家を調査し、荒廃度危険度の数値化を目指した。また、観光資源の洗い出しとフェイスブック等による情報発信を試みた。



##### ②活動の成果及び効果

この地区をとりまく「待ったなし」の状況を住民全体で認識でき、地区における課題や問題解決を住民自ら取り組むことの意識が育った。

WEB 上でこの地区における関心度が飛躍的に上昇した。特に関西圏からのアクセスが急増している。

#### 4. 残された課題と今後の提案

策定した「まちづくりプラン」をもとに実践的な働きがけを考える。その際、緊急度、重要度等を考慮し優先順を決め実施プランを作成する。

「まちづくりプラン」は時限的なものであり、数年毎の改訂を必要とされる。修正を必要とする事案については、その根拠修正案等を事前に協議会に図り、地域住民に周知する。

「まちづくりプラン」が地区の運営の根本であると位置づけ、全ての行動を「まちづくりプラン」より求めることにより、問題課題を一元化し地区のまとまりを強固にする。

地域内を客観的視点から見直し、観光施設の掘起しと資料作りを通して、地域住民全員の財産であることの認識を図る。また、情報発信によりこの地区により興味を持ってもらうための方策を考える。



ふるさと祭り

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

本年度4月より魅力化応援隊員としてこの地区の担当となった。この地区の出身者でもなく、職務としても新人の隊員であり、継続的に進行している自治組織設立に向けてブレーキとなったことは明らかであった。

私の前任者2名の活動が発展的で新規事業の発起も多く、さらに私自身がこの地区の現状や隊員として、やるべき事を把握するのに時間を要し、事業の継承の機会を逃したものもある。



あじさいウォーク

毎年担当者が変わることは〔制度上の大きな問題があるがここでは問わない〕この地区にとって不幸である。担当者が変わっても事業がスムーズに継承できる「基本マニュアル」の作成が必要であると考えた。

それが「まちづくりプラン」である。自治組織設立の基礎となる「種むらづくり推進協議会」が、この地区の問題課題解決の方策として方向性を示す（同時に魅力化応援隊員の働きがけの方向性も示す）「まちづくりプラン」作成準備に取り掛かった。

中山間過疎地域共通の問題点の確認、及び種地区独自の現状の問題点を知るために、地域住民アンケートを昨年9月に実施した。

アンケート結果を精査分析したところ、共有する過疎地としての問題点は、平均的でなく極度に追い詰められた事案もあることがわかった。

また、アンケートの結果を可能な限りわかりやすい冊子にし、地区民に配布することによって、地区の置かれた現状の認識と問題点の共有化を図った。

アンケートの結果から私見をいえば地区の現状は『この地に住む必然性の喪失』と感じられる。現状のまま時がたてば、数十年後にはこの地は確実に野に帰る。

アンケート結果を担保とし「まちづくりプラン」を作成策定する。今後地域住民は明確な意識をもって問題解決にむけて活動することを期待する。私も許される限りその一助となりたい。



アンケート結果冊子



まちづくりプラン

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

北仙道地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 4 月

3. 活動の概要

①活動の内容

地域魅力化応援隊員 2 年目も、「地域自治組織設立支援業務」と「地域魅力化業務」に注力すると同時に、「夏季学生インターンシップ事業」に奮闘した。「学生インターンシップ事業」は 8 月 7 日より 9 月 7 日の 1 カ月間実施した。

〔 島根県 〕

○ 「夏季学生インターンシップ事業」 ----- H 2 7 . 8 . 7 ~ 9 . 7

- ・ 地区内の古老・名物おばさん・役職者等に「地区インタビュー」
- ・ 盆踊りや「キャンドルライト in あかがり & かかしコンテスト」等への参加
- ・ G I S 研修会、「子供地元学 in 北仙道」参加
- ・ 「頑張ってます北仙道！ 成果発表会 & 講演会」にて「耕作放棄地の利活用」についての提言を、「若者の視点」で行なった

〔 益田市・地域自治組織設立支援事業 〕

○ 「頑張ってます北仙道！ 成果発表会 & 講演会」 ----- H 2 7 . 9 . 6

- ・ 9 月 6 日、北仙道地区振興センター・体育館にて、前年度の「地元学 in 北仙道」と今年度の「子供地元学 in 北仙道」の成果発表、インターン自身による成果発表、そして藤山 浩 先生による講演会を実施した。

当日は、2 年生から 5 年生までの 4 名の小学生が参加し、みんなで制作してくれた「手作りお宝マップ」を披露。



学生のインターンシップ成果発表



中山間地域研究センター藤山統括監の講演

○ 「北仙道地区まちづくりアンケート」 ----- H 2 7 . 1 1 . 2 5 ~ 1 2 . 1 5

- ・ アンケートについて、対象を「中学生以上の北仙道地区在住者（個人）」とし、470名に配付し349名（提出率約74%）から提出があった。準備会議第8回会合で、仮集計を行った。集計結果を全戸配付する予定。

本格的な分析は来年度以降、ワークショップ等開催しながら逐次「委員間」、また「地区住民間」で行なう事と決している。

### 〔 益田市・地域魅力化事業 〕

- 「北仙道地区基礎カルテ作成事業」( 第2期 ) ----- H27. 7
  - ・ ノート型PCを購入。「GISソフト」をインストール、これからの利活用への体制が整った。
- 「キャンドルライト in あかがり&かかしコンテスト」 ----- H27. 8. 15
  - ・ 「キャンドルライト in あかがり&かかしコンテスト」実行委員会が計画・主催された、皆さんお馴染みの赤雁の一大イベント。「かかしコンテスト」を追加実施され、今年度も成功裏に開催された。
- 「子供地元学 in 北仙道」 ----- H27. 8. 21
  - ・ 前年度の「地元学 in 北仙道」が「大人(他所から)の視点」での掘り起こしだったのに対して、今年度のそれは、「子供(地元から)の視点」で大人達を触発してもらおうという意図で実施したものである。当日は、1年生から5年生までの7名の小学生が参加してくれた。



明頭寺にてお話を伺う



これぞ手作り！「お宝マップ」

その他、地域魅力化応援隊員独自の活動としては、「GIS研修会」の立ち上げと各種研修への参加がある。

### 〔 GIS研修会 〕

平成26年度に島根県中山間地域研究センターの主催する「GIS活用連続講座」に5回参加、応援隊員と嘱託職員の有志5人で自主研修4回を行ない、「GIS」導入の端緒に立った事から今年度、応援隊員7人・嘱託職員1人で「GIS研修会」を立ち上げ、島根県中山間地域研究センターの「GISモデル事業」にも応募した。

### 〔 研修 〕

- 応援隊員向けの「みんなで考えよう 地域の魅力化」研修 全6回
- 島根県中山間地域研究センター主催の「待ったなし研修 第1弾」
- 益田市主催の「地域づくり研修 第1弾」
- ふるさと島根定住財団主催の「地域づくり入門セミナー in 益田」 全3回
- 「先進地視察調査 ～ 神石高原町 ～」
- 益田市主催の「地域づくり研修 第2弾・人口拡大シンポジウム」

### ②活動の成果及び効果

### 〔 島根県 〕

#### ○ 「夏季学生インターンシップ事業」

夏の1カ月間、山形県からやって来てくれた20歳の女子大生が、「他所からの

若者の視点」で当地区の良さの掘り起こしをしてもらった。

#### 〔 益田市・地域自治組織設立支援事業 〕

##### ○ 「頑張ってます 北仙道！ 成果発表会&講演会」

夏季学生インターンシップ事業の成果発表会と藤山統括監の講演会にあわせ「子供地元学 in 北仙道」の報告を同時に実施し、地区住民へのフィードバックができた。

##### ○ 「北仙道地区まちづくりアンケート」

先ず提出率であるが、「74.26%」という数字は予想していたより高く、本当に多くの方々にご協力頂いた。「当地区の傾向と欲しているもの」を探り、「地域課題の整理」をして、地区住民全員が「情報を共有」する事に主眼を置いたものである。今後の分析を「まちづくり計画」等に活かしていきたい。

#### 〔 益田市・地域魅力化事業 〕

##### ○ 「北仙道地区基礎カルテ作成事業」(第2期)

「ノート型PC」の購入で一応、今年度の事業としては完結しているが、今までの2カ年で導入できた「ノート型PC」・「プリンター複合機」・「GPS機能付きデジタルカメラ」・「GISソフト」・「航空写真」をセットで活用していきたい。

##### ○ 「キャンドルライト in あかがり&かかしコンテスト」

この事業は、本年度で9回目を迎え、年々充実して来たと感じている。期待される効果は、当地区への集客を期待でき、当事者としての地区の「心意気」を示し、地域活性化の「起爆剤」足り得、対外的には「U・Iターン」への期待、及び「北仙道の良さ」を感じてもらい、色々と対外的に発信できる事にある。

それは、農村公園「赤雁の里」を中心とした赤雁地区の方々の永年に亘る地道な努力の賜物であり、前記した「北仙道地区まちづくりアンケート」の当地区で思い当たるものは何ですか？との問いに、「比礼振山(権現山)」に続いて特別多く書かれていたことを鑑みても、当地区の観光振興面でも大きな役割を担っていると感じられる。

##### ○ 「子供地元学 in 北仙道」

昨年6月に実施した「地元学 in 北仙道」に引き続いて、2年連続でこの種の事業が実施できた。「子供たちの視点」が大人達に「気付き」を生み、「触発させてくれた」であろう事が成果である。

#### 〔 GIS研修会 〕

GISについては、「情報共有」という面からしても全地区振興センター、そして市役所本庁も含めての「全市体制」で取り組むべき事業だと感じている。まずは、有志一同であれ、研修・研鑽を積むその場を提供できたことが、ある種成果と言えるだろう。

#### 〔 研修 〕

成果としては、一にも二にも「地域自治組織設立へ向けての理論武装(蓄積)」と「自身のスキルアップ」であると、これは断言できる。

前職の「地域力アップ応援隊員」時代からすると本年度が3年目であり、「地域自治組織」の設立に向けて本格始動し始めてから2年目である。自分自身が、研修やこういった活動をする事で、「地域づくりとは何ぞや?」という疑問・質問にだんだんと答えられる様になって来ているのを感じるのである。

#### 4. 残された課題と今後の提案

課題としては、昨年度の「地元学 in 北仙道」、そして本年度の「学生インターンシップ事業」・「子供地元学 in 北仙道」にしても、中々2年の間にこの種の事業を複数回実施した地区は無いと思うのだが、応援隊員としての私の地区内への「認知度、そして浸透度の低さ」が災いしてか、どうも「上滑り」している感が否めない。

また、会長さんより「まちづくり計画」を先に作らないと、向かって行く目標が漠然としていて、如何とも動きづらい」というお話があったので、これからの当地区の指針となる「まちづくり計画」を策定するのが先決だと考えられる。その原案・成案を策定する途中で、本年度実施した「北仙道地区まちづくりアンケート」の分析をしてもらい、その意見・提案を盛り込めば良いと考える。

提案としては、次の3点を挙げる。まず、本年度より始めた現在「毎月第3水曜日」の準備会議の定例会を、会自体の回数を増やすか、又は「策定分科会」でも新設して、ある程度少人数で進行具合を早めるか、との考えがある。2番目の提案としては、これまで実施できなかった「先進地視察調査」を、来年度は是非とも実施できたらと良いと感じている。「先進地視察調査」については、市内の多くの地域で実施されており、「非常に参考になった」・「良いものを見せてもらった」等の非常に肯定的な意見を度々聞いている。

最後に、これは「北仙道地区まちづくりアンケート」の集計結果から導かれた事なのだが、地区住民の準備会議自体に対する「認知度不足」、そしてそれは、取りも直さず「地域自治組織の設立という大命題の認知度不足」を、来年度こそは何とか解消しなければならないということである。その解消策として、来年度は「平均人口30～50人」・「各町内の組を2～4組」に分けた小単位で、当地区をおよそ「10分割」し、「地区説明会」を実施したいという考えがある。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

この2年目は、相当忙しく活動させて頂いたと感じている。

その最たる理由は、夏場に「**学生インターンシップ事業**」を獲得、実施のお手伝いできた事であり、その同時期に「地域魅力化プロジェクト事業」中の「**頑張ってます 北仙道！ 成果発表会 & 講演会**」、「**子供地元学 in 北仙道**」を同時実施でき、加えて副次的に、「**北仙道地区基礎カルテ作成事業**」（第2期）、「**キャンドルライト in あかがり&かかしコンテスト**」の2事業、そして、「**G I S研修**」までも実施できた事は、私自身としても得難い経験であったし、地区内に小さいながらも「さざ波」を立てられたのではないかと感じている。

そして、その延長線上で今回、決めの「**北仙道地区まちづくりアンケート**」の実施をお手伝いできた事は、当地区の方向性を示す上で役立つと感じている。委員の皆さん、そして何より地区住民の皆さんに役立てて頂きたいと願っている。

ここ2年間でテーマとして取り組んできたことは、「気付きと触発」である。それには色々な意味合いが含まれているのだが、ここでは敢えて説明しない。このテーマは、来年度も引き続いて掲げたいと私自身は思っている。

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

豊川地振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 4 月

3. 活動の概要

①活動の内容

I. 地域自治組織設立準備事業

- ・ 地区民への周知（設立準備団体の組織化、会議の開催等）
- ・ 地区の現状把握（地区民アンケート調査の実施）
- ・ 次年度に向けた活動計画の検討（事業計画（まちづくり計画）の作成）
- ・ 地域魅力化プロジェクト事業に関する事務支援

II. 地域魅力化事業

- ・ GIS（地理情報システム）によるマップの作成事業
- ・ 歴史的遺産・名勝等の利活用再整備及び保存事業
- ・ 次世代育成に関する事業
- ・ みんな笑顔のとよか<sup>④</sup>づくり事業（古民館プロジェクト）

②活動の成果及び効果

I. 地域自治組織設立準備事業

「地域自治組織設立準備会議の開催」

- ・ 第 1 回：平成 27 年 6 月 9 日（火）

○準備委員会の構成員を運営委員、自治会、地区団体等から 43 名に増員。

○準備会の名称を「とよかわの将来を考える会準備会」に決定。

○規約は内容等の不具合が生じた場合、進捗状況に併せて修正する。

○役員選出については厳選なる話し合いにより決定。

○市から「これからの地域自治組織の仕組み」ガイドブックの説明。

- ・ 第 2 回：平成 27 年 7 月 14 日（火）

○つろうて子育て推進協議会のコーディネーター河野氏より「次の世代が育つ郷づくりから見えたもの」～豊川地区つろうて子育て推進協議会の取り組みから～と題し、講演を開催。

○組織体制及び事業については、準備会の会議計画及び収支予算、アンケートの実施、先進地視察等の説明。地域魅力化プロジェクト事業の説明。

○自治会の現状、課題等を地区別のグループでワークショップを開催。

- ・ 第 3 回：平成 27 年 10 月 6 日（火）

○アンケート実施について各委員に素案を配布、意見や要望を聞く。

○学校拠点プロジェクト（みんな笑顔のとよか<sup>④</sup>づくり事業）と連携、運営・企画をしていただける方を募集。

○グループ討議については、自治会の現状、課題等年代別のグループにてワークショップを開催。



・その他

- 地区の現状やワークショップで出された意見など「とよかわの将来を考える会準備会だより」（毎月発行予定）にて地区民に周知を図った。
- 準備会開催にあたり役員会を4回開催（1月末現在）している。
- 12月に地区民に対してアンケート調査を実施。現在、集計作業中で集計結果は「とよかわの将来を考える会準備会」にて分析し地区の方々に周知を図るとともに、まちづくりプランの作成に反映していきたい。
- 今後は地域自治組織設立の為の先進地視察や研修会の実施等、来年度に向けた活動計画の検討を予定している。

II. 地域魅力化事業

・GIS（地理情報システム）によるマップの作成事業（2nd stage）



豊川小学校（コミュニティスクール）のPTCA活動と連携しGISソフト地図太郎によりスクールゾーンにおける危険箇所をマップに落とし「豊川安全マップ」を作成した。マップは、豊川小学校の昇降口に設置し地区全体で情報を共有、利活用を図り住みやすい地域づくりに繋げている。

魅力化応援隊員数名（有志）により「地図太郎」研修会を独自に企画し、活用及び操作方法に関する研修会を2回（2月末現在）開催している。

・歴史的遺産・名勝等の利活用再整備及び保存事業

平成28年1月より「久々茂遺跡」「古矢遺跡」「大谷城跡」「葦草山」において現地調査及びルート調査を実施、倒木処理、低木除去、除草作業等、地区の方々の協力を得ながら環境整備、既存の案内板等の維持管理を行う予定である。

今年度は既存の保存事業に加え、岩栃地区入口に設置している「家名介岩栃の歌看板」が朽ちたこともあり新規に作成中。現在、字入れも終わり（2月末現在）今年度中には岩栃の大元神社の舞殿（枝垂れ桜で有名）に設置予定である。



・次世代育成に関する事業

寺子屋事業活動報告として、

- 自学支援教室（冬休み等）      ○ティーボール教室等（スポーツ教室）
- 子ども神楽教室等（伝統）      ○星空観察会（自然）
- ALT英会話教室（教育）      ○その他、キャンプ、群れ体験等

☆今年度は他に地域発見ウォーク in 久々茂を開催予定



これらの取り組みで、地区の方々に講師として参加いただき、豊川地区の特色のある様々な教室を実施した。地区内の中高生もボランティアで携わってもらい、学習の習慣づけや意欲向上を図ることができた。寺子屋事業以外にもe-board（インターネットを利用して、小中学生を対象に、誰でも、いつでも、自由に学べる無料の学習サイト）での人的な支援、教材費や事務用品等の購入、サポートを行った。

・みんな笑顔のとよか④づくり事業（古民館プロジェクト）

学校拠点プロジェクト事業と提携。地域の誰もが気軽に立ち寄れる交流スペース（小学校）を地域住民や保護者が自分たちの手で作れるように木工DIY教室等のワークショップの開催を企画・支援・開催した。

・第1回ワークショップ開催 平成27年12月19日（土）

toyokawa tukuriba としていろんな材料、いろんな工具で「作る」をコンセプトに地区の方や親子に参加いただき、名作絵本「どうぞのいす」・竹細工・木の枝などで小物等を作成。

ワークショップ開催にあたり学校拠点づくりプロジェクト会議を2度開催。現在、2回目のワークショップについて検討中。



#### 4. 残された課題と今後の提案

##### I. 地域自治組織設立準備事業

「とよかわの将来を考える会準備会」を柱として、地域課題の整理・解決、情報の共有・周知の為の取組み、新たな地域運営の仕組みづくり、新たな推進体制を整えたい。地域のために住民が心一つにして、夢と希望の持てる活力のある自治組織の設立を目指したい。

今年度を実施したアンケート調査は、集計作業中（2月末現在）であるが、今後は、集計した結果を踏まえて先進地視察など検討していきたい。

##### II. 地域魅力化事業

###### ・GIS（地理情報システム）によるマップの作成事業

次年度からは今年度実施した「地域づくり団体等による空き家調査事業」の資料を基に定住を中心としたマップ制作を進めていきたい。また、未だ活用及び操作方法が曖昧なため地図ソフト等の研修は継続したい。

###### ・歴史的遺産・名勝等の利活用再整備及び保存事業

地区の観光資源、遺産・名勝、歴史・伝統を守るためにも今後も継続していきたい。今年度は「家名介岩柵の歌看板」も新しく設置する予定で、地元学や新しいイベントなど積極的に地域資源を活用していきたい。

###### ・次世代育成に関する事業

「つろうて子育て推進協議会」の寺子屋事業と連携、次世代に繋がる地区の財産となる子ども達の育成を図り「地元に残りたい」「将来的に帰りたい」と思える活動を目指している。今年度は地域主体による eboard における学習支援も開始されており、生徒の学力及び地域教育の活性化も期待できる。

###### ・みんな笑顔のとよか④づくり事業（古民館プロジェクト）

学校拠点プロジェクト事業と連携し、モノづくりのワークショップを企画して開催した。地域の幅広い世代の方々がこの事業で自分の趣味や特技をシェアすることでコミュニティの輪が広がっていくのではと期待している。また、交流スペースや公民館をより幅広い世代の方々に利用していただけるよう「地域づくりの人材を生み出す」拠点にしていきたい。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は上記の活動以外の活動として、地区イベントのサポート、独自のパソコン教室「パソコンカフェ」（月2回）の開催、子ども地域活動モデルづくり事業（つろうて子育て推進協議会）や地域で取組むがん対策事業への支援、Facebook によるイベントや歴史・文化等の発信、神石高原町への視察や「地域の IT リーダー養成講習」等の各種研修への参加、子ども地元学の開催等に取り組んだ。

次年度は地域自治組織の推進をはじめ、自主防災組織づくり、定住対策、独居高齢者対策にも取組みたい。パワーアップした地域魅力化プロジェクトにより「人口拡大計画」に向け、大きなステップになるよう心掛けたい。



なんとなく ほっとする  
そんなふるさと



Think globally, act locally  
Going "glocal"

地域魅力化応援隊員 氏名 岸本 真樹

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

真砂地区振興センター

2. 配置年月

平成 27 年 8 月

3. 活動の概要

(1)活動の内容

①地域魅力化事業

i. 『食育活動』…地域力醸成プログラム「モデル公民館」事業 [H25-27] の推進

A) 保育所給食食材提供 (週 2 回)

真砂保育園を含む市内4保育所と提携し、低農薬で安心安全な真砂の野菜を園児の給食食材として提供。登録農家は約40戸。生産者会議(週1回)と保育所会議(月1回)で生産状況の確認、及び保育所の要望を聞き取って調整し公民館で集出荷。余剰分は市内大型スーパーの地産地消コーナーにも出荷しています。

B) 生産力向上と安心安全な野菜づくりの為に土づくり研修会 (全 4 回)

i. -A)の欠品対策と、より安心安全でおいしい野菜づくりのため、生産者を対象に専門家による土づくり研修会(座学と実践)を実施。



C) 買物バスツアー (月 6 回 2 コース)

地域内に商店や飲食店がないため、運転免許のない買い物弱者(主に70代以上の高齢女性)対策として試行運転中。デイサービスの送迎で使用している車(7人乗り)の空いている時間帯を利活用し、市内大型スーパーまでの送迎を行っています。土地の地形上、バス停から家までが上り坂の家庭が多く荷物の運搬が困難なため、帰りは自宅までお送りしています。(合わせ技で野菜出荷を兼ねる場合もあり)



ii. 都市農村共生対流総合対策交付金事業（農政局） [H27-28]の推進

A) 野菜生産高齢者の生きがい実態調査

たかせ内科（市内）の高瀬院長先生にご協力いただき、i.-A)の取組みによる高齢生産者の健康実態調査を実施しました。

B) MASAGO いちにちレストラン（全3回）



真砂の地元食材を用いて、プロのシェフが講師となり、地域の女性たちと調理した料理をいただく一日限定の田舎レストランイベントを実施。

第一・二回は女性を対象とし、各々芦屋市と市内イタリアンレストランのシェフに協力いただき野外で開催。

第三回は、市内フレンチ、およびイタリアンレストランのシェフに協力いただき、真砂保育園・小中学校の子ども達（35名）と先生等、合計80名限定のいちにちレストラン（子ども編）を公民館で開催。

C) 地域づくり先進地視察（埼玉県小川町）

食と農に関心のある地域住民等13名で、集落全体が有機農業に転換した小川町下里「有機の里」を訪れ、農産物やブランド力の強化、都市との交流による地域づくりや、地域循環の仕組み等を学びました。

D) 子どもの遊び場づくり…波田城跡整備（全7回予定）

地元の大工さんを講師とし、歴史ある波田城跡地にワークショップ形式でツリーハウスを制作。参加者は主に30～70代男性（10数名）。木材や道具の扱い等を若い世代に引き継ぐ目的も兼ねています。

また最終日は、しまね田舎ツーリズム推進協議会主催の親子体験イベントを同時開催し、地区外との交流も図ります（3/27実施予定）。

iii. 島根県特別支援地区事業 [H25-27]の推進

A) 新しいコミュニティづくり…MASAGO 女子会（2～3か月に1回）他

子育て世代のコミュニティづくりのきっかけとして女子会を発足。女性目線で地域課題を考え、解決方法を模索。子育てをしながらでも負担なく楽しみながら小さな取組みを継続することを目的とします。

iv. その他

A) 自治会活動支援（日晩山登山道整備・桜の管理等）

昔からの自治会の活動も継続的に支援しています。

B) 地域内外への情報発信

- ・facebookでの情報発信（地域内各団体で共同運営）
- ・website真砂+ <http://masagoplus.jp>

## ②自治組織設立支援事業

### i. 設立委員会（月1～2回）

地区代表13名の委員の方と共に、H27.6～7月に5地区で開催したワークショップで出た意見等をもとに、「まちづくりプラン」「活動計画」「規約」案を策定。来年度4月末に予定している真砂版地域自治組織『ときめきの里・真砂』設立に向けて協議を重ねています。

### ii. ときめきの里・真砂通信（月1回）

自治組織の動きの周知と苦手意識の軽減、参画者の発掘を兼ねた通信を公民館だよりとあわせて発行しています。

### iii. 各種団体意見交換会（2回）

組織設立後に協力頂く各種団体の代表の方との意見交換会を1・2月に実施。

### iv. 地区集会 ※3/6～12 実施予定

設立総会に向けて代議員公募を兼ねた地区集会を5地区で実施。

### v. 自主防災団体設立

高齢化率が高いことから、福祉を兼ねた暮らしに根差した自主防災団体を設立。3月15日に先進地（浜田市弥栄村）視察を予定。



## (2)活動の成果及び効果

### ①地域魅力化事業

#### i. 『食育活動』…地域力醸成プログラム「モデル公民館」事業

i.-A) 保育所給食食材提供の取組により、真砂保育園では独自の里山保育の効果もあって園児の病欠日数減少が確認できており、また生産者（主に70～80代の高齢女性）にとっては、これまで廃棄していた野菜を園児に食べてもらえることが自身の生きがいとなっており、また販売することで収入にもつながっています。このことから、i.-B) 土づくり研修会への参加も積極的で、今後の出荷野菜の品質、及び生産力の向上が見込まれています。

i.-C) 買い物バスツアーについては、好評につき昨年度より増便中。来年度はさらに真砂保育園と連携し、園児との交流も兼ねる予定です。

#### ii. 都市農村共生対流総合対策交付金事業（農政局）

参加した住民が真砂の地域資源や先人の知恵・文化等の良さを再認識し、また日頃の自分達の活動にも自信が持てるようになりました。同時に、外部人材（団体）の協力や都市部との連携による波及効果や、それらの地区内への周知の必要性を強く感じました。

iii. 島根県特別支援地区事業

iii-A) 女子会から出た企画で、小学生の振替休日の預かり先問題解決も兼ね、いちにち駄菓子カフェを開催（全校生徒15名他、地域住民等約30名が来店）。地域活動に参画するのが難しい子育て世代の女性の意見を吸い上げ、反映させることが出来つつあります。今後の活動の継続と広がり期待しながら、小規模でも長く続けられるような仕組みづくりを検討します。



iv. その他

自治会の地道な活動により、毎年の恒例行事である春の桜まつり、秋のまるごとフェスタ、日晩山登山・ウォーキング等において、地域外からの観光客（リピーター）が増加しています。

また地域全体で共同運営しているSNSサイトでは日々の地区内の様子が多角的に発信されています。（半年で約200名のファン増）

② 自治組織設立支援事業

来年度4月末の設立総会に向け、住民への周知や各種会議を重ねることで、少しずつではありますが理解・賛同を得られてきているように感じています。

また、ii) 『ときめきの里・真砂通信』の発行により、関係者以外から「自治組織の事がようやく分かってきた」「自分も地域づくりに参加したい」との前向きな意見をいただくことが増えてきました。

4. 残された課題と今後の提案

真砂は、「やれる人が先ずは動く」をモットーに活動してきた結果トップダウンで物事が進みがちで、取組が評価される一方、取り残された感を抱いている住民も少なくありません。初期段階ではとくに一部関係者で決断しなければ進まないのも事実ですが、定期的に老若男女幅広く全ての住民の意見を吸い上げられる場づくりと周知強化を図ることで、意識の共有ができていくのではと思います。

また、現在は多くの催しが中心部で行われていますが、小学校が廃校になった馬谷地区等でも交流できる機会を創出することで真砂全体がボトムアップによる地域づくりが盛んになると考えられます。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

着任後半年足らずですが、地域柄、住民の皆さんに直ぐに受け入れていただき、大変良い環境で仕事をさせていただいています。10月からは住民票も移し、一住民としても自らが住み続けたい町づくりを目指し日々業務に取り組んでいます。

この半年で地区内の課題が大分整理できてきたので、来年度はもう少し活動範囲を広げたい（地区内外ともに）と考えています。

また、今後は他地区の応援隊さんとの連携も深め、益田市（もっといえば石見地域、島根県）全体で共通課題を解決していければと思っています。

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

西益田地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 12 月

3. 活動の概要

①活動の内容

- A) いかだ流し
- B) 夜神楽 in 梅月
- C) クリスマスイルミネーション
- D) 地域自治組織設立準備事業

②活動の成果及び効果

A) いかだ流し

平成 27 年 7 月 25 日 向横田橋下河川敷地

前夜祭 午後 2 時より 鮎のつかみ取り等開催

平成 27 年 7 月 26 日 いかだ流し大会 総計 17 チーム (162 名) 参加

タイムレース 8 チーム参

前夜祭と合わせスタッフ 200 名超、観覧・応援者約 700 名オーバー



## B) 夜神楽 in 梅月

平成 27 年 10 月 3 日 梅月 “あんな坂こんな坂” にて松明でかがり火をたき、  
荘厳な雰囲気の中 梅月神遊座による神楽演舞を地区内外  
で延べおおよそ 150 名の方々に鑑賞して頂いた。



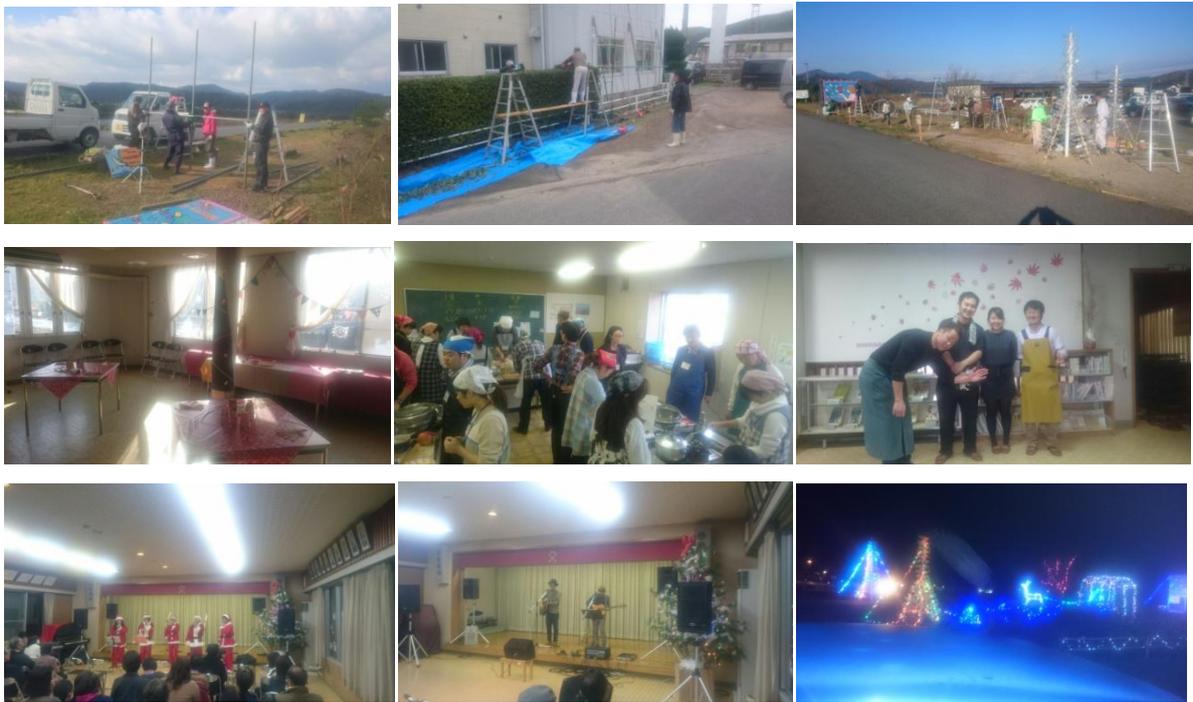
## C) クリスマスイルミネーション

平成 27 年 12 月 12 日 第一部 “クックノエルパーティー” と称し、独身男女  
の出会いの場を恋活の一助となるよう演出した。クッキング  
教室をプロの料理人を講師に招き、料理した後片付けまで  
して自分たちで作った料理でパーティーをし、第二部の点  
灯式に合流した。

参加者 男性=10名 女性=8名

### 第二部 “クリスマスイルミネーション点灯式”

昨年に引き続き横田右岸公園にシンボルパネルを設置  
し、木々や手作りの設置物にイルミネーションを施し、カ  
ウントダウンとともに点灯するセレモニーを開催した。イ  
ベントアクトとしてアマチュアコーラスやアコースティ  
ックデュオを招き盛り上げてもらった。来場者数は延べで  
100 を少し上回ったと思う。



#### D) 地域自治組織設立準備事業

- ・第 34 回「生涯教育実践研究交流会」5 月 16～17 日参加
- ・鳥取県日吉津村・出雲市荒木地区 先進地視察
  - 先発 10 月 7～8 日 館長・職員 2 名・会員 1 名 計 4 名
  - 後発 10 月 13～14 日 職員 3 名・市職員 1 名・会員 6 名 計 10 名
- ・アンケート作成会議 計 6 回 延べ 9 名のプロジェクト（センター職員含む）
- ・アンケート配布・実施・回収 自治会にお願いし、各組長・班長により全戸  
配布及び回収 回収率 86.5%
- 12 月 25 日集計・発表 西益田地域づくりの会を一般開放して結果発表  
数名の一般参加者あり
- ・西益田地域づくりの会会議、臨時を含め計 7 回開催
  - 年度終わりの会にアンケート結果を元にワークショップを実施



#### 4. 残された課題と今後の提案

課題と提案だが、地域自治組織の設立に向けた取組に対して、住民周知がまだまだ足りていないなので徹底して周知を図っていききたい。

また、住民による自治への参加を増やす努力をしていききたいと思う。地区住民自らが積極的にまちづくりに関われるように促していくとともに、地区住民自らが各事業を行っていきけるような体制を整えていければと思う。もちろん、当面は地区振興センターが主体的に地域自治組織の設立に向けた取組など情報発信し、住民を巻き込む形で展開せざるをえないと思える。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

本年度はアンケートの作成・配布・回収・集計・発表に注力した一年であった。地域魅力化事業のほとんどは回収後の開催だったため、地区振興センターの職員の皆さんに本当に助けて頂いた。地域魅力化応援隊員の仕事や段取り、その他の業務をサポートしていただき、感謝しきりである。このアンケート結果は来年度以降のまちづくり計画等を作成していく上で参考にしていきたいとともに、後ろ盾として大いに活用していきたい。

年度当初において、地域魅力化事業・地域自治組織設立準備事業ともに事業計画を策定して各事業を実施してきたが、今年度の事業内容を振り返ってみると、事業計画の内容に十分な内容ではなかったため、次年度は本年度の轍を踏まない計画を策定していきたい。

## 二条地区

地域魅力化応援隊員 氏名 伊藤 浩治

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

### 1. 配置部署

二条地区振興センター

### 2. 配置年月

平成 27 年 4 月

### 3. 活動の概要

#### (1) 活動の内容

5 月 24 日の総会及び、地域自治組織の認定に向けて、5 ヵ年邑づくりプラン、5 ヵ年活動計画、予算計画書の作成等の支援を行いました。



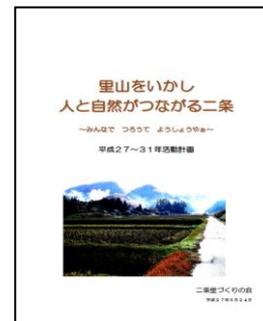
邑づくりプラン検討会議



5 ヵ年邑づくりプラン・活動計画



平成 27 年 5 月 24 日 二条里づくりの会総会



### 各部会での主な活動

#### なりわい部会

##### ①カレンダー作成事業

二条には、横山城址からの眺望を初めとする、素晴らしい里山の景観があります。その里山の景観を、二条地区の方には「再認識」を、かつて住んでいた方には「懐かしさ」、地区外の方には「美しさ」といった景観を、カレンダーにして情報発信する事を目的に、今年度より事業を開始しました。

##### ②ふるさと便事業

二条地区内外の方に、二条の特産物を知って頂くと共に、今後、二条里づくりの会の自主財源となりえる事業として、ふるさと便のお中元・お歳暮（約 150 セット）の発送準備や、ゆうパックプリントをつかった発送管理等の補助活動を行いました。



### ③里山整備事業

里山の景観を損ね、有害鳥獣の温床となっている放置竹林問題を解消する為、伐採だけでなく、維持・管理や、伐採後の竹の有効活用を行う事業として、伐採用機材の購入の事務処理や、11月に行った粉碎機のデモンストレーションの等の活動を行いました。



益田市の粉碎機を使用し、竹を粉碎した竹チップ

## ひと部会

### ①子ども交流事業

来年度、「川崎市サマーキャンプ in 益田」の受け入れ担当地区となっている為、匹見下地区に7名で視察に行きました。



来年度実施するに当たり、ペットボトルピザや竹細工など、大変参考になりました。

### ②交流人口拡大・維持事業、田舎体験型住宅整備事業

今年度より、しまね田舎ツーリズムに参加し、開催場所を田舎体験型住宅「つどい」を使用するという事もあり、「つどい」の整備活動や、ツーリズムの開催にあたり、しまね田舎ツーリズム主催者との相互連絡、事前準備・事後処理等の活動を行いました。

田舎体験型住宅「つどい」では、しまね田舎ツーリズム以外に、12月14日の周南地区「里の案内人」研修会や、2月8日の森を守ろう！山陰ネットワーク会議（島根県西部地区研修会）、2月22日の匹見町視察受入等、様々な活動で活用されています。



田舎体験型住宅「つどい」



「つどい」  
ひと部会会議



しまね田舎ツーリズム  
総勢 60 名での開催



周南市視察受入（45名）



森を守ろう！山陰ネットワーク（36名）

### くらし部会

#### ①子ども社会教育事業

7月9日～11日に、地域子ども「群れ体験」として、通学合宿が行われたが、11日の担当となったくらし部会と共に、メイプル牧場での作業体験、昼食の準備等の補助活動を行ないました。



自分の子どもも、こんな時があったのかと、しみじみと思いながらの活動でした。

#### ②鳥獣対策事業

有害鳥獣対策に向けて、暗視カメラ・クマ用電柵等、機材購入の事務処理や、鳥獣被害・目撃情報収集にあたり各戸配布用文書の事務処理。また、情報収集したデータの見える化を行う為のGISソフトの研修、そして、地区住民の方に、有害鳥獣の生態を知って頂く為、「イノシシ」「クマ」講習会の準備等の活動。



「イノシシ」相談



「クマ」相談会

### ③自主防災事業

自主防災組織の設立に向け、今年度は、普通救命講習を行ないましたが、皆さん息を切らしながら、一生懸命取り組んでいました。



普通救命講習受講中①



普通救命講習受講中②

### 二条里づくりの会 号外

ひと部会が中心となり活動を行っている、空き家対策事業の成果として、前年度から今年度の1年半の間に、約8組のUIターン者の方が移住されました。UIターン者の方や、二条里づくりの会の活動内容をより多くの方に知って頂くため、中山間地域研究センターの協力の基、情報誌の発行となりました。



各部会での活動をサポートするとともに、二条里づくりの会の会議(約40回)における会議次第や議事録等の事務処理を行いました。また、横山城址健康ウォーク及び文化祭等の公民館主催行事や、二条ふるさと祭り等の地域行事への参加など、地域自治組織での活動だけではなく、地域に係わる活動も行いました。

#### (2) 活動の成果及び効果

各事業ともに、5ヵ年計画の初年度としては、ほぼ計画通りに実施できたのではないかと思います。ふるさと便事業や田舎ツーリズム等の情報発信の効果として、県内外からの視察や問合せの増加から二条里づくりの会の認知度が高くなった事が伺えます。また、当会の事務等の負担を軽減する事により、計画に沿って活動を行う補助になったのではないかと思います。

#### 4. 残された課題と今後の提案

二条地区だけの課題ではないと思いますが、地域自治組織への住民意識がまだまだ低いと感じます。自分自身も、今年度より応援隊員として着任し、初めて地域自治組織というものを知り、手探りの状態で活動を行ってきました。これらの事を考え、いろんな世代の方が参画できるような組織づくりや、運営方法・情報発信等、小さな拠点づくりも含めて考え、来年度につなげたいと思います。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

二条里づくりの会は、地域自治組織の設立に向けて、平成25年度から地域の現状把握のため、聞き取り調査を行い、その調査結果から諸問題の解決に取り組むために、3年間協議を重ねてきました。しかし、抱えている課題は、簡単に解決できる問題ではなく、5年先・10年先を見つめて活動を行っていく事が大切だと思われれます。その為、応援隊員の仕事として、事業計画を実施する上でのペースメーカーになる必要があると思われれます。急ぎすぎず、時には一息つけるように、地域の皆さんに無理のないようにセーブをしながら、来年度は、そういった形で活動が出来ればと思います。

地域魅力化応援隊員 氏名 眞庭 太樹

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

美濃地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 4 月

3. 活動の概要

①活動の内容

「美濃の里づくり計画書」の錬成、地区民で気運が高まっている「美濃カフェ」⇒「美濃サロン」に繋げる意識共有と共同活動、安定的なサロンの定期開催。景観向上で耕作放棄地が増えないように、地区内にヒマワリを植える運動の促進。自治組織設立準備会に若手メンバーの加入促進し未来に続く組織強化を促す。絆を深める取組として地区外の美濃の縁のある方々に広報誌の配布、美濃DVDの配布とフェイスブックの立上げと配信をしました。



地区の事を気軽に話し合った美濃カフェ



住民票はありませんが賑やかなカカシ達

②活動の成果及び効果

美濃の里づくり計画書については、新しく加入した「美濃地区自治組織設立準備会：青年部会」の委員に提示する事から、来年度に向けて部会設立の布石になったと感じます。また、「美濃カフェ」を開催し、約90名の幅広い意見や提案を元に、集落の消滅危機に立ち向かい「サロン交流会」の取組は劇的に進行し、「美濃ふれあいサロンの会」が立ち上がり、元出店旅館の家主を地区民が説得し無償貸出の条件の元、会員38名と共に旅館を大改修し「美濃ふれあいサロン」と改名しました。

「へき地の歩行者天国」（初回開催は101名の参加者）として、定期的に交流会を開催する等、地域がより一つになる活動と共に、行政に頼らない、地区民の地区民による地区民のための事業として動き出しています。また、この交流会の取組が珍しく、地区外からの来場も増えて年末の第4回ふれあいサロン大交流会（参加者：77名）は手打そば等、色々な事に挑戦する取組へと繋がって来ました。

また、美濃ジャスミンの会のヒマワリを荒廃田に作付けする取り組みは益田市景観賞：特別賞を受賞し、今年度は景観だけでなく、ヒマワリ 35 キロから搾油に挑戦するなど活発な活動をしています。



年々、地区民に浸透してきた向日葵の作付



中心部の荒廃を防ぐべく、景観意識が高い



総出で作業した「元出店旅館」の大改修



年末に仕出し場を大改修し料理可能に！

「美濃ぼんぼり」の会は出店旅館の改修や美濃三大行事の舞台設置、準備等に協力して頂きました。

地域の「絆」で交流促進事業では今年度、「美濃地区自治組織設立準備会」のフェイスブックを立上げ、地区外に住む若者世代に「美濃の今」を知ってもらい為に発信しています。併せて、地区外に住む高齢者世代を中心に「美濃はつらつ」広報誌を配布する取り組みは、美濃を離れても美濃を思ってくれる方へ好評で、美濃ふれあい祭りに合せて美濃地区に帰って美濃出身者と交流を深める事となりました。



有志達の度重なる協議は6時間に及んだ



使う・集う・繋げよう！美濃ふれあいサロ



ヒマワリの種をジャズシンの会が始めて収穫



年末の大交流会は地区外にも浸透しました

#### 4. 残された課題と今後の提案

これからの美濃地区を担って行く「美濃地区自治組織設立準備会：青年部会」の方々に集落の誇りを伝え、今、壮年世代が頑張っている様々な事業を行っている活動をいかに若者世代に伝えて、理解して頂けるかが焦点になると思われます。

ここ5年、10年で地区の縮小が現実的に迫っている中で、今後も20年ないしそれ以上の長い期間で未来を想像して自分が集落で生活できる地域にするかどうかで気運の高まりが変わってくると思います。また、各部会の設立は必須条件ではあるという認識は皆が持っているものの具体的にどのように纏まるか不透明であります。



美濃地区民の誇りを思い出した「地元学」



青年部が加入した美濃地区自治組織準備会

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

二年目になりましたが、去年、自分の足で集落を回り、地区民の皆さんと一緒に沢山の事を成遂げたり、勉強できたのは本当に良かったと思います。今年は私以外の職員が皆代わった事で美濃地区の住民の皆さんが「公民館を支えなければ」という意識が地域に下り、現場をまわるとその意識が痛いほど感じました。公民館職員と住民の距離が近く、また、信頼関係があり、常に双方が身近な存在だと思えるのは、とても羨ましくもあり、私にとってもありがたい事だと思いました。まずは、目先の事を行い、課題を見つけ、解決に向け、未来の事を考える、未来に繋げる意志を様々な人に忍耐強く伝える事が今後も必要だろうと感じました。



美濃魅力化団体及び子ども会を含めた協議



先進地現地調査は雲南市「入間地区」へ

団結する事が地域力を高め、また、持続する礎になると言う事を、来年度も地域住民と情報共有しながら地域自治の取組を進めたいと考えています。



美濃ハツラツ広報誌を美濃縁人に送る取組



一大事業になった「美濃どんど焼き」の風景



ミラー清掃等、地域住民のボランティア



地区民が自発的に行った旧美濃小校庭の整地

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

小野地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 7 月

3. 活動の概要

(1) 活動の内容

① 地域自治組織の設立準備

小野地区における地域自治組織の設立については、「小野地区地域づくり協議会準備委員会」を平成 26 年 5 月に立ち上げ、平成 29 年 3 月を目標として取り組んでいる。

準備委員会設立の 1 年目は、構成員のみなさんが「地域自治組織とは何か」ということについて理解することに取組み、2 年目は構成員が視察や研修会に参加しながらアンケートや講演会を実施してきた。そして 3 年目は、地域自治組織設立に向けて、まちづくりプランの策定をすることとしている。



ア 準備委員会構成員の増

準備委員会設立当初は、10 名のセンター運営委員が構成員となっていた。構成員については、2 年目の当初、組織の設立への準備を進めるうえで増員が必要であることと、若い世代の人の加入が必要と考え、13 名を追加した。

現在は、自治会役員や女性を対象とした更なる増員を検討している。

イ 先進地視察・研修会への参加

先進地への視察については、日帰りで複数の地区を調査したいという考えから積極的にまちづくりに取り組んでいる山口県を選んだ。中でも、山口市は「山口市協働のまちづくり条例」を制定し、市内 21 地区で協議会を設置し、まちづくりの推進に取り組んでおり視察先と決定した。

視察については、仁保地域づくり協議会と嘉川地域づくり協議会の 2 か所へ行った。2 つの協議会とも、部会ごとにそれぞれ年度計画を立て予算要求をしている。部会から出された事業計画を事務局で話し合い、予算配分をして事業を推進している。部会長も部会員も、自治会や関係する団体から選ばれた方で構成されている。

2 つの協議会を視察して、仁保地域づくり協議会の活動計画と嘉川地域づくり協議会の組織づくりについては、今後当地区が取り組む組織づくりに大変

参考になった。

研修会については、2月に山口市で開催された「人づくり・地域づくりフォーラム in 山口」へ準備委員会構成員4名、地区振興センター職員3名の計7名が参加した。当地区からの参加は初めてであった。

フォーラムでは、5つの部会（①学校・地域連携、②福祉・健康、③まちづくり・協働、④環境保全、⑤子育て・食育）に分かれて実践事例発表があった。当地区からの参加者は、まちづくり・協働部会の発表を主に公聴した。

どの事例発表も参考になり、各地でさまざまなことに取り組んでいる様子が伝わった。特に、当地区においては、「つろうて子育て協議会」を設置して、地区で子どもを育てていこうとしていることから、「PTAに地域のCを加えたPTCAによる活動が刺激となって、学校支援から地方創生へと発展した取組み」の発表が気を引いた。

#### ウ アンケート調査の実施

地区に在住されるみなさんの意見を集約し、まちづくりにつなげていくために、中学生以上を対象にアンケート調査を行った。ただし、質問内容については、中学生と高校生以上の2部門に分けて実施した。



中学生に対しては、準備委員会の趣旨を理解してもらうために、準備委員会会長及び地区振興センター職員が小野中学校へ出向き生徒に直接説明した。会長からは、「卒業後、都会に出てもいずれは帰ってきて欲しい。そのためには、小野地区がどのようになればよいかアンケートに答えてほしい。」との思いを伝えた。回答書には、小野地区の良いところや悪いところなど、的確に記入されていた。

高校生以上を対象にしたものについては、79%の方から回答があった。「現在不便を感じていることがあるか」という問いに対して多くの方の記述があり、多かった意見は、「買い物が不便」、「交通機関が不便」、「病院がない」であった。

アンケートの回答については、まちづくりプラン策定の重要なデータとなった。

#### エ 講演会の実施

準備委員会構成員や地区住民の方に「地域自治組織とは何か」ということを理解してもらうために、講演会を実施した。講師の選択については、地域自治組織の設立の経験があり、指定管理について説明ができる方という条件設定をし、広島県庄原市の自治振興区事務局長とした。

講演では、地域自治組織設立時の経験をもとに、「最終の目的は、ここに生まれてよかった、ここで育ってよかった、ここに嫁いでよかった、そして、最後にはここで死ねてよかったと思える地区にすること



が大事です。」と話された。

講演会では、戸田小学校の6年生が授業でプレゼンテーションした「小野の地域づくり」の様子をビデオで紹介することもできた。大人も感心する内容の発表であった。

講演会終了後はワークショップを行い、「住みやすい地域を創るために」というテーマにより、小野地区の今後についてグループで討議した。

## ② 地域魅力化事業

年度当初の事業の計画に際して、準備委員会で協議し、「多くの方が関われる事業」と「地区の子どもと大人が触れ合える事業」を実施することを話し合った。

### ア ボランティアガイド育成事業



地域資源を積極的に紹介することにより、地域住民にふるさとへの愛着と誇りを持ってもらうこと、また、地区の素晴らしさを他地区へ発信することにより交流人口の拡大を図ることとして、平成24年度からボランティアガイドの育成をしてきた。育成については、今年度も引き続き取り組んだ。

取組みの内容としては、ウォーキング大会を実施した際に、参加者の先頭に立ちコースの全般をガイドする者と、数か所の説明ポイントでやってきた参加者にガイドする者の担当に分かれる実践方式により実施した。

また、もう一つの取組みは、現地に出向いてガイドするのではなく、地区振興センターに参加者を集め、地区内の景観等を写真に撮ったものを、スクリーンに映し解説する方法も行った。

### イ 人形峠観光説明板等整備事業

益田十景に選ばれ、益田市の観光ルートになっている人形峠にある観光用説明板が老朽化し写真が消えてしまっているので、説明板を取り替えた。

説明板の取り替えに併せ、周辺整備を行い、説明板を取り替えたことを地区の方に知っていただくために「地域づくりにつなげよう！小野探訪ウォーキング in 飯浦」を実施した。当日は、小野保育所の園児にも参加していただき、小学生も含め、子どもと大人が触れ合える場づくりになった。



## ウ 「小野ふるさと誌」編集事業

小野地区には、地区の歴史書として、大正末期に編纂された「小野村誌」がある。この「小野村誌」を基にして昭和期以降の記録を追加し、新しい「小野ふるさと誌」を編集・発刊することとし、平成26年度に編集委員会を設置し、平成28年度の完成を目指して取り掛かっている。

2年目となる今年度は、地区ごとや項目ごとに担当を分けていることから、各自がその原稿作成に取り掛かった。年度末には各自の原稿を持ち寄り、編集会議を行った。

### (2) 活動の成果及び効果

昨年度は、地域自治組織の設立準備や地域魅力化事業を単発的に行ったが、今年度は、年度当初に、準備委員会の会議で「多くの方が関わられるように、事業ごとの関連付けができるよう」という意見が出されたことから、「地域づくりにつなげよう！小野探訪ウォーキング in 飯浦」を実施し、準備委員会の構成員とボランティアガイドと一緒にイベントを行い、連携を取り実施した。対象者を子どもから高齢者まで参加できるように計画し呼びかけたことから、「地区のことを改めて知ることができた」や「幅広い年齢の方が参加してよかった」という意見が聞かれた。一方、参加者の中には「地域づくりをしていることを知らない」という声があることもわかった。このことは、地域づくり講演会を開催しても参加者数が少ないことにもつながっており、今後、地域づくりをしていることの周知の必要があることがわかった結果でもある。

## 4. 残された課題と今後の提案

アンケートやイベントを実施しても、地域づくりの知名度が低いことに痛感させられた。自治会役員の方や「おのつうしん」を通じて地区の方に周知を図っているが、まだまだ認知されていない。

新しい組織の立上げに向かっては、少人数単位のグループによる説明会の開催などとして、認知度を上げていかなければならない、と考えている。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

配属されて2年目となる年であった。少しずつやることが見えてきて、成果と課題がわかりかけてきた感じがしている。

新しい組織の立上げについて、準備委員会の会議でも討議はしているが、机上の空論のような気がすることがある。それは、新しい組織の必要性はわかるが、具体的に何をするのかわからないところにあるような気がする。もっと自分の中で、具体的な構想を描き、それを多くの人に伝えるようにしないと、地域づくりの認知度は上がらないと感じている。

地域魅力化応援隊員 氏名 吉賀 和之

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

中西地区振興センター

2. 配置年月

平成 27 年 5 月

3. 活動の概要

① 活動の内容

● なんでもお助け隊事業

昨年からの継続事業で、去年の 7 月から本格的に活動を開始しました。主な作業は草刈ですが、その他に墓掃除や垣根の剪定など、様々な活動を行いました。



● 環境保全事業

有害鳥獣駆除対策として、動物駆除用火使用講習会を開催し、地区民の方に受講していただきました。

不法投棄見廻り隊ですが、現在も絶えない不法投棄を無くすために重点地域のパトロールを行い、監視体制の強化を図りました。



花いっぱい運動では、美しい環境を守って、心温まる人間関係つくるために各自治会へ花木（かぼく）を配布し、各自治会が管理する花壇や、私道沿線に植え付け作業を行っていただきました。



● 空き家管理保全事業

各地区の空き家について自治会から情報をいただいた家屋について各地区の相談員の方と調査を行いました。また、管理者の方と連絡が取れた家屋については、今後、管理について検討・調整を行っていきます。

● 中西ヘルスポイント事業

「中西いき活き市」及び中西ヘルスポイント制度は、平成 24 年から毎月継続的に実施しており、今年 2 月で 4 周年を迎えました。この活動を通じて、地区の皆さんの生産・出荷活動における生き甲斐や収入に繋げ、サロンを併設として、交流の場として利用されています。

## ② 活動の成果及び効果

### ● なんでもお助け隊事業

活動を開始して13件の活動を行い、地区の高齢者の方にとって、生活支援事業の一つとなりました。またこの活動を通して、高齢者がどのようなことに困っているか把握もでき、今後の高齢者支援に役立つ情報収集も担っています。

### ● 環境保全事業

動物駆除用花火を使用できる方が増え、地区内で問題となっている有害鳥獣の対策に迅速に対応できるようになりました。

不法投棄見廻り隊では、不法投棄の多い個所を黄色のパーカーを着て見廻りすることにより、ゴミを拾うだけでなく、行き交う人の環境美化への意識向上や啓発になっています。また参加される方も意欲が高く、地区内の環境美化の意識の高さがうかがえます。

「花いっぱい運動」では、自治会ごとに花木を植栽していただき、美しいまちづくりにつながりました。

### ● 空き家管理保全事業

18件の家屋について調査中ですが、管理者と管理について協議を行っていないため、今後、協議・調整を行っていく予定です。

### ● 中西ヘルスポイント事業

「中西いき活き市」は、毎月開催し、今年度は約2,000人（平均約170人）の地区住民等が訪れ、高齢者等が家庭菜園で作る野菜や和菓子なども出荷され、生産・出品を通じて楽しみや生きがいを生み出しています。併設の「ふれあいサロン」は毎回多くの方が利用され、地区の皆さんの交流・ふれあいの場として定着し、毎月開催を楽しみにしておられます。

ヘルスポイント割引券は、この2月末現在で今年度650枚発行し、約7割（450枚）を回収しています。センターでの講座・教室への参加者も増加しており、参加される方々がヘルスポイントを楽しみに積極的に参加されています。

以上のような活動が地域に根付き、昨年12月には、「中西ヘルスポイント制度」が読売福祉文化賞を受賞したことにより、さらに盛り上がりを見せています。

#### 4. 残された課題と今後の提案

##### ①なんでもお助け隊事業

活動が開始されたものの、年間13件と想像より依頼件数が少なかったため、地区の皆様にも再度周知する必要があります。毎月チラシを配布するとともに、「センターだより」にお助け隊の活動を掲載するなど、広報活動を充実させていきます。

##### ②環境保全事業

最近、地区内でイノシシの被害が相次いでおり、今のところ有効な対応ができていない現状があります。その対応策として捕獲用の檻をセンターで購入し、住民の皆様にも貸し出す方向で検討中です。

##### ③空き家管理保全事業

地区内の空き家の把握はできましたが、空き家バンクへの登録や空き家の有効な活用までには至りませんでした。今年度集めた情報をもとに、来年度以降、地区内の空き家の有効活用ができるように管理者に呼びかけていく方向です。

##### ④中西ヘルスポイント事業

この活動を続けていくには、自主財源確保が必要です。来年度には地場産加工品を朝市で販売することにより、自主財源確保の基礎作りを行っていきます。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

昨年の5月から応援隊員として務めさせていただき、自治組織設立に向けての成果は思うように挙げられませんでした。しかし「中西ヘルスポイント制度」が読売福祉文化賞を受賞し、「中西いき活き市」は活気にあふれています。来年度も地区住民が暮らしやすい地区になるように、活動していきたいと思っております。

## 二川地区

地域魅力化応援隊員 氏名 小原 静伍

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

### 1. 配置部署

二川地区振興センター

### 2. 配置年月

平成 26 年 4 月

### 3. 活動の概要

#### ①活動の内容

- ・ 二川地区地域自治組織設立準備委員会（以下：準備委員会）の事務局  
準備委員会及び同役員会の会議設定・調整・資料作成  
地域課題の調査・研究等の支援
- ・ 地域魅力化事業の支援

#### ②活動の成果及び効果

- ・ 地域自治組織設立準備事業  
役員会 13 回  
全体会 6 回  
視察 1 回  
研修 1 回



①	4 月 14 日	役員会⑦
	会議内容	◇地域自治組織について協議〈人口拡大課・地域づくり推進課と意見交換〉 ◇第 9 回準備委員会について
②	4 月 21 日	全体会⑨
	会議内容	◇二川まちづくり提言書の勉強会 ◇平成 27 年度準備委員会の予算について
③	5 月 12 日	役員会⑧
	会議内容	◇第 10 回準備委員会について ◇今年度事業について
④	5 月 19 日	全体会⑩
	会議内容	◇【班別会】地域の問題を考え・解決する組織を考える①
⑤	6 月 16 日	役員会⑨
	会議内容	◇第 11 回準備委員会について
⑥	6 月 23 日	全体会⑪
	会議内容	◇地域の問題を考え・解決する組織を考える②
⑦	7 月 14 日	役員会⑩
	会議内容	◇組織体系案作成① ・問題点の抽出

⑧	7月31日	役員会⑪
	会議内容	◇組織体系案作成②〈地域づくり推進課と意見交換〉 ・先進地事例の報告 ・役員会素案についての協議
⑨	8月21日	役員会⑫
	会議内容	◇組織体系案作成③ ・自治組織と地域の各種団体の関わり方について
⑩	9月8日	役員会⑬
	会議内容	◇組織体系案作成④〈人口拡大課・地域づくり推進課と意見交換〉 ・役員会素案についての協議
⑪	9月30日	役員会⑭
	会議内容	◇組織体系案作成⑤ ・自治組織の方向性について
⑫	10月18日	視察研修
	視察先	杣の里よこみち（津和野町左鐙）
⑬	10月28日	役員会⑮
	会議内容	◇組織体系案作成⑥ ・自治組織の事務局業務について
⑭	11月17日	役員会⑯
	会議内容	◇組織体系案作成⑦ ・全体会に向けた調整
⑮	12月2日	全体会⑲
	会議内容	◇組織体制に関する役員案の報告 ◇視察研修の報告
⑯	12月9日	役員会⑰
	会議内容	◇第13回実行委員会について
⑰	1月14日	全体会⑳
	会議内容	◇経過報告会（自治会班会）の調整 ◇自治組織のキャッチフレーズの選考
⑱	1月17日	経過報告会（板井川班）
⑲	1月18日	経過報告会（宮の原班）
⑳	1月27日	経過報告会（上班）
㉑	1月27日	経過報告会（本郷班）
㉒	1月31日	経過報告会（下班）
㉓	2月9日	経過報告会（堤郷班）
⑳	2月10日	役員会⑱
	会議内容	◇第14回準備委員会について ◇班会報告書の修正
㉑	2月16日	全体会㉑
	会議内容	◇経過報告会の報告 ◇ワークショップ「地域自治組織設立に向けて益田市に聞きたいこと」

②⑥	2月22日 役員会①⑨
	会議内容 ◇質問表の修正
②⑦	3月16日 研修
	研修内容 ◇道川地区
②⑧	(予定)3月 全体会①⑤
	会議内容 ◇人口拡大課・地域づくり推進課と意見交換
②⑨	(予定)3月 役員会②⑩
	会議内容 ◇第16回準備委員会について

・地域魅力化事業

二川の四季を感じる交流事業

せせらぎの夕べ開催 (9月26日)

地区住民作成の灯ろう展示

青少年育成交流事業

研修者と住民の交流

旧小学校校舎清掃・周辺の整備

世代間食育事業

連作障害予防のレンゲ畑作り

野菜作りを通じた体験交流



4. 残された課題と今後の提案

今年度は二川地区の事情に沿った自治組織の姿を話し合い、自治会を班単位で回り地区住民の意見や質問を集約することができた。また、二川地区の自治組織は、自治会・公民館・地区振興センター機能を集約したものと方向性が決まったので、来年度は自治組織設立に向けた準備に取りかかる予定。これまで地区の活動の指標であった『二川まちづくり提言書』を参考に、まちづくりプラン及び活動計画を検討、作成に取り組みたい。さらに、地域の拠点として二川小学校跡地の利活用にもつながる取り組みを考えていきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

自治会班会を回り、準備委員以外から意見・質問をたくさんいただいた。今後このような機会を通して、自治会からのスムーズな移行につなげたい。

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

匹見上地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 5 月

3. 活動の概要

①活動の内容

- I、転出減を図る取組
- II、交流人口拡大のための取組
- III、設立準備委員会設立

②活動の成果及び効果

I の取組として、高齢者と小中学生の三世代交流と有害鳥獣対策に取り組んできました。

高齢者との交流では、地元の伝統文化の継承をつたえる為、地元の方を講師に迎え、盆踊りの太鼓・口説き・踊りの指導を中学生にしてもらい、盆踊り本番では、その成果を発表することができ、地域の方と一緒に盆踊りを盛り上げることが出来ました。

また、合同運動会前には奉仕活動として、小学生、地元寿会、PTAとで学校の校庭の草取りを行い、地域の方と三世代交流も図れ、集いの場も提供出来たと思います。

有害鳥獣対策事業では、鳥獣用煙火講習の受講を各集落に促し、新規受講者も含め昨年より多くの方が受講しました。また、支援事業費を利用して鳥獣用煙火と煙火用ホルダーを購入し、受講者に煙火花火を、新規受講者の方には専用ホルダーと煙火花火を配布し、集落単位・地区全体で鳥獣対策に取り組むことができました。



盆踊り



寿会との奉仕活動



鳥獣用煙火講習

Ⅱの取組として、わがまち自慢フェア、匹見の自然・環境を活かしたイベントに取り組んできました。

わがまち自慢フェアは毎年、10月に駅前ビル EAGA にて行っていましたが、今年度より地元の既存イベントである紅葉ロードレースと合わせ同日開催としました。

今年度初めてということで、当日まで不安でしたが、悪天候にも関わらず、多くの市内外の方が足を運んでくださり交流人口拡大に繋がりました。今回の反省点を今後を活かせれば、まだ沢山の集客が見込めると感じました。

匹見の自然・環境を活かした事業では、7月に NPO 法人と協力して行った「川ガキ講座」があり、県内外の参加者に川下りや沢登りなどで匹見の自然を満喫してもらい、9月には森林インストラクターと、きのこ狩りを実施し、採取したきのこを、その場で選定し、食用できるきのこは、その場できのこ汁の具材として食し参加者は喜んでいました。

2月には匹見の山里体験として、豆腐づくり、かんじき体験などを行い、普段出来ない体験をすることが出来ました。各事業を通して各団体や地区住民と協力することができ、一緒になって魅力発信が出来たと思います。



わがまち自慢フェア



きのこ狩り

Ⅲの地域自治組織設立準備事業では、自治会、連合自治会、各種団体などの代表者だけではなく、住民一人ひとりに地域自治組織のしくみを理解してもらおうと、全集落に足を運び、地域の課題や魅力を住民と共に話し合いながら説明会を行いました。

住民説明会時の意見交換で出た意見は集約し、準備委員会でワークショップを行いました。その意見をまとめて、3つのテーマを作成し、準備委員会で、そのテーマが柱になるようなワークショップを改めて行いました。まとめた意見を基に、28年度の魅力化事業や地域自治組織設立に向けての柱になればと考えています。

また、12月には先進地視察として雲南市入間地区に視察研修を行い、入間地区の取り組みや設立までの経緯、苦労したことを聞きました。この視察研修も含め、色々な地区を見て、学び、匹見上地区の地域自治組織を設立できたらと思います。



準備委員でのグループ協議



先進地視察（雲南市入間地区）

#### 4. 残された課題と今後の提案

残された課題と提案としては、伝統芸能の伝承等の講師の方の人数が少なく、数年前には盆踊りの口説き手がなくなる現実がありました。現在は中学生に継承して継続出来ていますが、地域住民も含め早急の後継者育成をし、地区全体で伝統文化を後者に伝えていく必要があると思います。中学生には、盆踊りの文化や歴史などの学習を行い、指導してもらうことで、今以上に興味をもってもらうことができるのではないかと考えます。

有害鳥獣の煙火講習については、昨年度に比べ受講者の数は増加していますが、大半仕事をもっており、日中に鳥獣が出ても対応出来ない事があるので、これをどう改善していくかが課題になっていくと思います。

イベント参加者においては、ほぼ毎年参加者（固定客）がかわらず新規の参加者、お客さんを増やさなければ交流人口の増加は難しいと思われるので、地元の温泉と協力して人口交流の拡大を目指したいと思っています。その中で、今年度は、わがまち自慢フェアを小・中学生を参画させ地元のイベントと同日開催したことで、交流人口増加に繋がったのは評価できると思います。

地域自治組織設立は3つのテーマを、準備委員会で、しっかりした柱にして、その方向性を住民一人ひとりに理解してもらえるように、もう一度各集落に説明会を行い、公民館便りにも現在の進捗状況を掲載しながら組織設立を進めて行きたいと思っています。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動をふりかえって

今年度は地域自治組織について、住民一人ひとりに理解してもらおうと匹見上地区全集落を対象に地域自治組織について説明会をしました。説明会時には住民に地域の課題や魅力に対しての意見交換を行い、その中で、色々な課題や魅力、集落単位での色々な活動を行っており、地域や集落に対しての思いの声が聞けて大変勉強になった1年でした。

12月には準備委員、運営委員と雲南市入間地区に先進地視察も行い、行政や大学生との連携、地区住民の理解が大切だと改めて感じる事が出来ました。今年度学んだことを活かし、次年度は地域自治組織の柱なるものの具体的な活動の計画をたて、1歩でも自治組織設立に近づけたいと思います。

## 匹見下地区

地域魅力化応援隊員 氏名 小島 雄二

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

### 1. 配属部署

匹見下地区振興センター

### 2. 配属年月日

平成 27 年 10 月

### 3. 活動の概要

#### (1) 活動の内容

##### ア) 地区を知る

- ・地区の行事・活動への参加

匹見下ふるさと祭り・とちの実交流会・健康教室・鳥獣被害集落点検・匹見地区 3 公民館会議・集落点検・匹見温泉活性化会議・つろうて子育て協議会・匹見町産業文化祭など多種多様。

- ・匹見町誌・匹見町マップなどにより、地区の歴史・地理・名勝・特産品等を学ぶ。

- ・地区パトロール、書類配布などを通じ、地区住民との接触の機会を増やす。



とちの実交流会 (H27.12.1)



ふるさと祭り(H27.11.14)



集落点検報告会(H27.10.29)



健康教室(H27.10.27)

##### イ) 地域自治組織設立への参加

匹見下地区は、益田市の地域自治組織設立事業先進 5 地区の一つに指定されている。平成 27 年度が仕上げの年にあたり、今、4 月の地域自治組織設立に向け、各委員会で最終の協議を行っている。

- ・地域づくり研修会 (10 月)

- ・雲南市波多地区への視察研修（11月）
- ・地域づくり協議会 旧澄川小学校跡地利用委員会（11月・12月）
- ・地域づくり協議会 役員会3回（11月・12月・2月）
- ・地域づくり協議会 全体会（12月）
- ・地域づくり協議会 地域活性化委員会4回（1月～2月）
- ・地域づくり協議会 健康福祉委員会3回（1月～2月）
- ・地域づくり協議会 生活環境委員会3回（1月～2月）



地域づくり研修会(H27.10.21)

地域づくり協議会役員会(H27.12.14)

## （2）活動の効果および成果.

### ア）地区を知る

匹見下地区は、地区面積 65 km<sup>2</sup>、人口 301 人、高齢化率 64.5%と、数字の上では益田市 20 地区の中で、過疎先進地区である。しかし、山林や清流といった自然資源は豊かで、過疎、高齢化であるがゆえに、地区住民一人一人の辛抱強い生き様や、古くからの暮らしに根ざした知恵や文化の伝承、お互いの関わりあい方等、他では失われようとしているものが、今もこの地区には強く息づいている。

しかし、交通手段の確保、生活物資の確保、鳥獣害被害対策、生活環境の整備、防災・防犯対策等、日々の生活を最低限維持するために必要な、解決すべき緊急の課題が山積している。

さまざまな行事や会議に参加して感じるのは、出席率の高さや参加者の熱心さである。地区に対する愛着や関心の高さの現れであり、地区の未来への可能性を感じている。

### イ）地域自治組織設立への参加

地域づくり協議に参加することにより、地区の魅力や課題を短期間に知ることができ、地区の人と共有することができた。また、会議で発言し、また人の意見を聞くことにより、地区に対する自分の認識がまとまり、深めることができた。

各委員会で討議されている課題は、この地区の存亡を左右する緊急のものばかりであり、個人のレベル、従来の手法では対応できないものとなっていると思う。

それ故に、新しい地域自治組織、地域づくりプラン、アクションプランを早急に作成して、活動を始める絶好の機会が到来している。

## 4. 残された課題と今後の提案

### —課題—

ア) 4月下旬に予定されている「匹見下地区地域づくり協議会」の設立に向け、「ま

ちづくりプラン」を作成すること。

イ) 「まちづくりプラン」に基づき、「アクションプラン」を作成すること。

ウ) 匹見下地区としての「地域自治組織」の船出の目途はたったが、今後は行政の指針が海図ともいふべきものになるので、共に舵とりの責任持つ覚悟が必要となる。

エ) 匹見下地区の基幹産業ともいふべき、林業、わさび、なめこ、鮎等は、沈滞したままである。経済基盤を充実させることが、まちづくりを支える大切な要素である。

#### —提案—

ア) まちづくりに今まで通り、地区民自ら率先して参加することはもちろん、人口が少なく高齢化の著しく進んだ匹見下地区では、特に若年や女性の参加できる場づくりが必要となる。そして出された意見を必ずまちづくりに反映するようにして貰いたい。

イ) 今後、まちづくりの活動を行うにあたり、この地区だけの力では限界が生じると思う。自治組織を活用し、他の地区、他の団体等、外部との交流を深め、その力を広く活用して貰いたい。

ウ) 特に、高齢者の方が、生涯現役の心で何らかの経済活動に参加できる場を作り、働くことを通して社会参画を深めてほしい。

エ) 匹見下地区では、地区民の総意で「地域自治組織」を立ち上げることになる。今後、様々な課題解決を行っていくなかで、行政も議会も今まで以上に関心を持ち、地区民の期待に応えて貰いたい。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

実質5か月間の活動であり、しかも、初めて活動する地区でした。まず、地区に慣れ、人に慣れる期間でした。さらに、「地域自治組織」設立の仕上げの時期と重なっており、はたしてどれ位、地区の応援隊になっていたか、心もとない。

そのような中で、地区の皆さん、地区センター、並びに行政の方々にも目をつぶっていただき、猶予期間をいただいていたものと思う。この地区にだんだんと興味がわき、好きになりつつある。今後、自分の能力、キャリアを活かし、少しでもお返しをしたい。

## 道川地区

地域魅力化応援隊員 氏名 高田 純子

平成 27 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

### 1. 配置部署

道川地区振興センター

### 2. 配置年月

平成 26 年 4 月

### 3. 活動の概要

#### ①活動の内容

##### ★地域支援

- ・地区 6 集落の現状把握、高齢者の見守りの為の定期的な地区巡回「声かけ訪問」を実施。

##### 《重点集落》

臼木谷 (5 戸、6 人 高齢化率 100% 及び 2 地域居住世帯 5 戸)

##### ★地域自治組織設立準備事業

- ・地域づくり協議会を構成する各種団体及び地域住民の連絡、調整役として自治組織設立準備に向けた話し合いの促進、視察研修等の調整、実施
- ・企画委員会設置に伴う、各団体代表者及び住民の意向調査実施。
- ・企画委員会議を実施し、まちづくりプラン (案) 作成支援を行う。
- ・設立に向けての進捗状況を周知する為、協議会だよりの発行、配布



自治組織設立準備委員会議、企画委員会議の実施 まちづくりプラン(案)作成



～視察研修会 H28.2.8～



【出羽自治会】の組織運営と  
地域通貨を使った手間替えの仕組み

【農家レストラン京ら屋】  
田舎体験活動研修

## 【魅力化事業】

- ・ 地区内の各種団体の連絡、調整、企画等、実行委員会及び住民と地域の魅力を高める活動に取り組む。さらに、フェイスブック等での情報発信を開始。



真砂地区の取り組みを研修



親睦交流会企画会議



美濃地屋敷菊花展準備

### ★観光交流事業

「旧割元庄屋美濃地屋敷」「道の駅匹見峡」「産直市出合いの里」の3施設を交流結節点とし、春祭りや秋の収穫祭、菊花展等、イベント全般の企画、運営の活動支援。交流人口の拡大と経済の相乗効果を図る。



小、中、高の児童生徒も活動参加

出合いの里・美濃地屋敷での交流事業

### ★地域産業活性化事業

- ・ 生産農家支援（産直市出合いの里への出荷量アップと新規参入の促進）
- ・ 特産品開発試作品研究の実施



★住民福祉事業

- ・「配食サービス試験事業」の運営、連携団体の拡張（安否確認、声掛け増）



★地域内交流事業

親睦交流会（住民が一堂に会し、共に学び合う場）各世代、多様な団体に役割分担



学習発表会、講演会、アトラクション、展示会、自治組織進捗状況説明等実施

★ 地区振興センター、公民館業務の企画、運営補助。



運営委員会 年6回

てくてく「道川の歴史探訪」

盆踊り大会（伝承事業）

②活動の成果及び効果

★平成26年度、高齢者の暮らし支援の第1歩として開始した配食サービス「ぬくもり弁当」は、多くの方の協力をいただき、活動内容の幅が広がったと考えます。年度当初より、老人クラブ寿会の友愛訪問事業の一環として弁当の宅配を取り入れることになり、声がけに合わせて実施しました。高齢者以外の方の宅配登録もあり、「食」のニーズが高いことがわかりました。ひとつの地域課題に対し、協力団体が増えていくことで、活動のステップアップが期待されます。

★自治組織設立準備委員会では、昨年度、住民の理解を得、今年度は、設立に向けた動きとして、まず、企画委員会を設置しました。

企画委員が中心となり協議を重ね、「平成28年度の早期自治組織設立」に目標を定め、今後の話し合いの基となる「まちづくりプラン」(案)を作成しました。

地域内で意識の共有が図れたことは、大きな成果と考えます。

★フェイスブック等での情報発信により、多様な方に、道川を知っていただく機会が増えました。と同時に日中地域外で働く若い世代が、地域の中で、どんなことが、どのように行われているか、誰が関わっているのかを知ることができ、地域への関心と理解を深めていることが実感できました。

#### 4. 残された課題と今後の提案

今年度、企画委員会から検討委員会へまちづくりプラン(案)を提示するところまでできました。設立まであともう少しですが「いきいきと、安心して暮らし続けることができる地域」を、みんなで創り上げていくための母体として、どう運営していくのか、これからが本番です。

道川地区には、何よりも地域の人と人の強く温かなつながりがあります。それぞれの年代で役割をもちながら、地域を維持しようとする「守り」の部分と個々のいきがいを地域の賑わいにつなぐ「攻め」の活動がバランスよく進められています。

これらの活動が、より、効果的に発展していくよう、そして、「新たな自治組織の運営体制」が、地域に根付いた組織となるよう、今後さらに、行政、地区振興センター、公民館、関係機関等、共にしっかりサポート、協働することが必要と考えます。

また、人口が少なく、メンバーの固定化した地域内の住民だけでは新鮮な情報や柔軟な発想に欠ける面があります。今後、地域外の方(学生や都市部の方等)の力や声を積極的に地域づくりに取り入れて行く必要があるかと考えます。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域の皆さんと話し合い、活動をともしする中で、「地域づくりとは何か」、「自治組織とは何か」何度も何度も自分に問いかけた1年だったように思います。

今年度一番の成果は、「道川まちづくりプラン」が策定できたことです。目標をたて、「いつまでに、誰が、何をするのか」を明確にしたことで、皆さん、ゆとりを持って、計画通り進めることができたように思います。

来年度、新たな組織のもとで、「道川流地域づくり」がスタートします。と同時にステップ5に向けた話し合いが始まります。まずは、あせらず、ゆっくり、しっかりと足元を固めていきたいと考えています。

今年度、隊員の地域魅力化研修では、各地区の特色を活かした活動、また、地域の個性ゆえの課題を学び合いました。そして、それぞれの地域で活動する隊員の「地域への思い」に、たくさんの刺激をいただきました。

益田市20地区、地域に不足する「もの」、「力」を補い合い、各地域の魅力を互いに高め合えるよう、地区同志のつながりを強めていければいいなと思います。

以上

## ○地域魅力化応援隊員事業実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地区振興センター等を中心とした区域（以下「地区」という。）において、人口減少、少子高齢化等により集落や自治会単位では地域運営が困難となりつつある状況を踏まえ、地域運営を主体的に行う新たなコミュニティの創設及び地域の魅力の創造（以下これらを「地域魅力化」という。）に向けて、地区における当該組織の設立を支援し、並びに地域住民が抱える地域課題の整理及び情報の共有化による住民自治機能の充実や機能強化を支援するため市が設置する地域魅力化応援隊員（以下「応援隊員」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(配置)

第2条 市長は、地域魅力化に向けて次の各号のいずれかの事業を実施する地区の地区振興センターに応援隊員を配置する。

- (1) 益田市地域魅力化プロジェクト事業補助金交付要綱（平成26年益田市告示第76号）に規定する地域魅力化プロジェクト事業
- (2) 地域自治組織設立支援等事業補助金交付要綱（平成25年益田市告示第83号）に規定する地域自治組織設立支援等事業

(任命)

第3条 市長は、公募又は第2条各号に規定する事業を実施する地区からの推薦により、地域の実情に精通した者、地域コミュニティの構築に意欲をもって取り組む者又は地域の活性化の推進に関して知見を有する者の中から、応援隊員を任命する。

(身分)

第4条 応援隊員の身分は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第172条第3項ただし書及び地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(任期)

第5条 応援隊員の任期は、1年以内とし、再任用を妨げない。

(所掌事務)

第6条 応援隊員は、地域魅力化プロジェクト事業又は地域自治組織設立支援等事業を実施する団体の支援に関する事務を所掌する。

(報告)

第7条 応援隊員は、毎月前条に規定する事務について、地域魅力化応援隊員業務報告書（様式）を作成し、業務内容を証する資料を添えて、翌月10日までに市長に提出しなければならない。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この告示は、平成26年4月1日から施行する。

(有効期限)

- 2 この告示は、平成29年3月31日限り、その効力を失う。

## ○地域魅力化応援隊員事業実施要綱一部改正

地域魅力化応援隊員事業実施要綱（平成26年益田市告示第77号）の一部を次のように改正する。

第1条中「組織」を「コミュニティ」に改める。

第2条中「実施する」の次に「団体の存する」を、「配置する」の次に「ことができる」を加え、同条第1号中「に規定する地域魅力化プロジェクト事業」を「の規定による補助金の交付対象となる事業」に改め、同条第2号中「に規定する地域自治組織設立支援等事業」を「の規定による補助金の交付対象となる事業」に改め、同条に次の1項を加える。

2 市長は、前項のほか、益田市地域自治組織の設立認定に関する要綱（平成27年益田市告示第11号）第5条第2項の規定による設立認定を受けた地域自治組織（以下「認定地域自治組織」という。）が存する地区の地区振興センターに応援隊員を設置することができる。

第6条中「地域魅力化プロジェクト事業又は地域自治組織設立支援等事業を実施する団体」を「配置される地区における第2条第1項各号に掲げる事業を実施する団体又は認定地域自治組織の活動」に改める。

第7条中「(様式)」を「(別記様式)」に改める。

別記様式中「様式(第7条関係)」を「別記様式(第7条関係)」に改める。

### 附 則

この告示は、平成27年6月12日から施行する。